

令和3年度(2021年度)
熊本市子どもの未来応援基金助成団体
活動報告書

目次

1. 熊本市子どもの未来応援基金について

- (1) 助成概要 1
- (2) 基金への寄附について 2
- (3) ご支援頂いた皆様 2

2. 活動報告

(1) スタートアップ枠

- デザインマイシード 3
- NP0 法人子育ての森 5
- NP0 法人せいしとらんし熊本 7
- ここサポ 9
- NP0 法人ポピンズくまもと 11

(2) 企画枠

- 熊本食育の会 13
- ほっこり子育てひろば 15
- 白川小学校親児の会 17
- NPO法人コロボックル・プロジェクト 19
- 特定非営利活動法人教育支援プロジェクト・マスタース熊本 ... 21
- ひご Pecs サークル 23
- プラダー・ウイリー症候群の子を持つ有志の会 25
- 学校法人熊本 YMCA 学園 27
- 子育てネットワーク「縁側 moyai」 29
- NP0 法人子育て支援ワーカーズペペペペらん 31

(3) 子ども食堂枠

- NP0 法人くまもと相談所 33
- 熊本学習支援センター 35
- 縁側サロン竹ちゃんち 37
- みんなの食堂 39
- ほがらか食堂 41

ouchi 食堂	4 3
NPO 法人逢桜の里	4 5
楡木子ども地域食堂なごみ	4 7
Yell つながるカフェ	4 9
一般社団法人 こどもキッチンブルービー	5 1
熊本転入ママの会くまてん	5 3
きずな	5 5
熊本市西区中島校区こども食堂まんまる	5 7
ゆげの森食堂	5 9
NPO 法人熊本 YWCA	6 1
尾ノ上コミュニティ食堂「陽だまりの樹」	6 3
食育体験！たつだ・こどもカフェ実行委員会	6 5
にしばる地域食堂実行委員会	6 7

1. 熊本市子どもの未来応援基金について

「熊本市子どもの未来応援基金」を活用して、子育て支援活動をする個人や団体を支援しています。熊本市子どもの未来応援基金は、平成6年に熊本市エンゼル基金として、次の世代を担う子どもたちが、いきいきと、たくましく、健やかに育つ環境づくりに資することを目的に創設されました。

平成31年(2019年)4月から、子どもたちの未来の応援につながるものとして、「熊本市エンゼル基金」を「熊本市子どもの未来応援基金」へ名称を変更するとともに、新たに、子ども食堂への支援を行うなど、助成対象を拡充しました。

(1) 助成概要

○スタートアップ枠・企画枠（広く全般に子育てや児童を支援する活動）

対象事業	1 地域における子育て支援活動 2 児童の健全育成を目的とする活動 3 障がいを持つ児童を支援する活動 4 ひとり親家庭及び両親のいない児童を支援する活動 5 父親の子育て及び育児参加を推進する活動
助成要件	個人または団体の居所・本拠地が熊本市内であること
対象経費	報償費、需用費（食料費は除く）、燃料光熱費、役務費、使用料及び賃借料、備品購入費（上限総額2万円）
助成額	・スタートアップ枠：設立後3年目までの団体・個人 初年度5万円、次年度5万円 ・企画枠：特に効果的かつ先進的な取り組みで、他の模範となるような活動を行う団体 単年度上限10万円

○子ども食堂枠

対象事業	1 食事の提供を通し、全ての子どもが気軽に立ち寄れる子どもの居場所づくりを行う活動（開設・運営補助枠） 2 1の子どもの居場所づくりに加え、学習等様々な学びの支援を行う活動（拡充枠）
助成要件	1 熊本市内で開設しているもの又は開設するもの 2 開催時、常駐できる責任者を配置し、国等の通知に基づき安全面・衛生面について適切な配慮を行っていること 3 責任者とは別に、活動の補助等ができるスタッフを1名以上配置すること 4 3人以上で構成されていること 5 継続した運営をする意思及び能力を有すると認められること 6 子どもが広く参加できるように広報し、団体関係者等特定の者しか参加できない運営を行わないこと 7 定款・会則等を備えていること

対象経費	報償費、需用費（食料費含む）、燃料光熱費、役務費、使用料及び賃借料、備品購入費（運営補助枠は上限総額2万）
助成額	・運営補助枠：年間の実施回数に応じて上限額を設定 年 4～12回 5万円 年 13～18回 7万円 年 19～24回 10万円 年 25回以上 15万円 ・開設枠：上限5万円（申請年度内に開始することが確定した団体に限る） ※1団体1回限り申請可 ※運営補助枠と併用可 ・拡充枠：上限5万円 ※1団体1回限り申請可 ※運営補助枠と併用可

（２）基金への寄附について

次の①または②のどちらかの方法により、随時、寄附を募集しています。

①ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」・「楽天ふるさと納税」での申し込み

・「ふるさとチョイス」

<https://www.furusato-tax.jp/japan/prefecture/43100>



・「楽天ふるさと納税」

https://www.rakuten.ne.jp/gold/f431001-kumamoto/?s-id=furusato_pc_area-kumamoto_f431001-kumamoto



②子ども政策課へ寄附採納願いを提出

下記の寄附採納願いを子ども政策課へご提出ください。納付書を送付いたしますので、金融機関（ゆうちょ銀行を除く）にてお振込みをお願いいたします。

（３）ご支援頂いた皆様

○令和３年度

計3,407件、計53,257千円

三和リース株式会社様、フジ化成株式会社様、株式会社松岡清掃公社様、有限会社矢野畜産様、有限会社福德開発様、株式会社七草堂様、明治安田生命保険相互会社様、株式会社レゴリスアーキテクト様、株式会社川崎ハウジング様、株式会社九州フラワースervice様、有限会社幸鷹牧場様、鈴木電設株式会社様、有限会社三河屋スーパー様、学校法人湖東学園様、エース産業株式会社様、三共運送株式会社様、山崎菅原神社様、個人

○令和２年度

計614件、計14,141千円

大同リース株式会社様、有限会社福德開発様、株式会社七草堂様、熊本青果物出荷組合様、株式会社コスギ不動産様、ペンタ・ロジスティクス株式会社様、山崎菅原神社様、個人

○令和元年度

計46件、計4,008千円

熊本江南ロータリークラブ様、有限会社福德開発様、株式会社七草堂様、山崎菅原神社様、個人

これ以前にも多くの方からご支援いただき、これまで計63,509千円の寄附を頂いております。

デザインマイシード

活動を始めるきっかけ/活動概要

不登校の子どもたちが、絵や製作をしても家族以外に見せる人がいないことや、見学旅行などにも参加できない現状にモヤモヤしていた。絵や製作で自己表現をした作品を見せ合い共感したり感想をもらえる場が必要だという思いから始めた。

また、社会科見学と同じく、アートを仕事にしている人と一緒に製作活動を楽しむ中で、その仕事についての流れや幼少期の事を話してもらい、今後の生き方や学び、仕事を考える時のヒントになってくれるといいなと思った。

親も一緒に参加することで、安心して自分の気持ちを話す場にできた。

他の親や子どもたちの様子を見ることで、それぞれの個性や接し方の振り返りにもなれればと思っている。

重点的に取り組んだこと/成果

参加の子どもたちが、緊張したり焦ったりせず、楽しめる安心した空気づくりを心掛けた。毎月、違った素材や手法、アーティストさんをお呼びして開催。

講師のアーティストさんにも、参加するこどもたちの性格や気をつけて欲しい事など細かに伝えて、自分で考えて自由に創造する活動になるようにしている。

その場の活動で終わるのではなく、活動を家に持ち帰って続きをやったり、その活動がきっかけで自信や興味がより続くよう繋げた。

アーティストさんから話を聞くことで、今できる事がどう仕事に繋がるか理解してもらえようにした。得意を仕事にしている輝いている大人を見て、仕事の楽しさや、やりがいを感じてもらえた。

回数を重ねる毎に、子どもたち同士も打ち解けていき話すようになってきたし、生き生きして目を輝かせている様子が見られた。

家に帰ってからも、もっと違う方法でアートを表現したり、関連する仕事を自分で調べていると聞いた。保護者の方からは「あえて弟を連れてこないことで、上の子どもとゆっくり向き合え、私のほっとする時間にもなっています。」と、言葉をいただいた。



課題/解決に向けての取り組み

不登校の子どもたちは、当日「やっぱり行きたくない。」と、不安に襲われることもあり、保護者の方は「キャンセルになるかもしれない」と予約出来ないでいらっしゃることも多かった。また、イベントは親が見つけてきて、親だけが意気込み、子どもは連れてこられる形になり温度差がある場合もあった。

完全な不登校のお子さまの親はワークショップと一緒に参加しようという気持ちにまではならない方も多く、本来必要な子どもたちに届いているのか。という課題も見えた。

「不登校の～」とつけたことで、「不登校と認めたくない」又は「不登校という文字を見ると気持ちが滅入る」という声も聞かれた。コロナもあり少人数の開催だったので、途中から、あえて不登校の子どもたちに限定せずに募集した。そうすると、不登校ではない子どもたちや、学校に行きしぶりがある子ども、フリースクールに通っている子どもたちの参加が多くなってきた。

上記を踏まえて、今後は場所を決め、自由に子どもたちが自分で行きたい時に行けるようなシステムにした方がいいのでは？と考えている。

単発での開催だったので持続的な活動も必要ではないかと考える。

今後の展開

今後は、月に1回の企画イベントのような今までの活動も残しつつ、平日の昼間に自由に出入りが出来て、製作をそれぞれが楽しむ場所を作っていきたい。

そうすることで、その日の気分で参加したり、製作を継続することもできるし、安心できる居場所になるのではないかなと思う。

また、今出来る事と仕事を繋げるために、作った物を販売していくやり方や活動も合わせてやっていきたい。

地域の方に来ていただき、より地域が開かれて皆で子どもたちと関わってを育てていきたい。

連携団体

企業や個人のアーティストさんと繋がることが多く、団体との連携が出来なかったように思う。

とまり木オンラインサロンという団体と繋がり、キッズレザープログラムを紹介してもらったり、活動についての悩みやアドバイスをいただくこともできた。

キッズレザープログラムより、革をいただき活動に活かすことができた。今後はより、地域の方たちや町とも繋がるように広げていきたい。

問い合わせ

		 or 
sayurin2595@gmail.com	担当者 橋本小百合	https://instagram.com/design_my_seed?utm_medium=copy_link

NPO 法人子育ての森

活動を始めるきっかけ/活動概要

子育ての森は、子育て世代を応援したいとの思いで 2020 年 4 月より活動しています。子育て世代を応援したいけど、私たちにどのように応援したらいいのか？という声が周りから聞こえてきたのがきっかけです。子育てをしにくくしているのは、親の心持ちと、子育て環境にあると考えています。まずは子育て環境をよくする活動として、子育てする地域、家の周りの環境、ご近所さんとのコミュニケーション作りが大切と考え、町内の小さな公民館を活用して、誰でも気軽に参加できるよう公民館で駄菓子屋さん活動を行っています。子育て世代の負担軽減のため、子ども達が子ども達だけで参加できるよう、学生ボランティアが中心となり活動しています。活動概要は第 1 日曜日、梶尾町湯の花公民館。第 3 日曜日、横手五郎公民館。2 か所は定期開催。時間は 13 時から 16 時。参加費は 100 円から 300 円まで。子ども達で計算しながら、参加費に応じて駄菓子と交換します。

重点的に取り組んだこと/成果

同じ場所で定期的を開催することで、最初は保護者と一緒に参加していた子ども達も、お友達同士、兄弟同士での参加、私たちの活動をご近所さんに説明することで、子ども達への日々の見守りの必要性もご理解やご賛同いただいているところです。成果として目に見えるものはありませんが、公園や公民館近くで、子ども達が子ども達だけで遊べる環境と、それを見守る地域の方が増えることを期待して今後も取り組んでいきます。

課題/解決に向けての取り組み

子育ては大変から子育ては楽しいに変えることを課題としています。昭和 40 年代以前に子育てをしていたお母さんたちは口々に、子育ては大変ではなかったといいます。そんな世の中だったと。それはどの家庭にも子どもがいて、地域 みんなで子育てを知らず知らずのうちにやっていったからだと思います。核家族化で子どものいない家庭が増えるにつれて、子育てに理解のない人も増えてきました。今一度自分自身も子どもだったこと、沢山の人の見守られて育ってきたことを思い出していただくためにも、駄菓子という媒体は適していると思います。大きな施設ではなく、熊本市のどこにでもある公民館を活用して、子ども達の第 3 の居場所作りに取り組んでいくことと、子育て世代の応援団として、子ども会などのお父さんお母さんの手間を省ける活動に取り組みます。又、地域 みんなで子育てをするという観点から、地域ボランティアの方たちを増やし、地域ボランティア主体の活動につなげていきたいと思っています。

今後の展開

今は2か所だけの公民館での定期開催ですが、1か所ずつでも開催場所を増やしていきたいと考えています。近所のおじいちゃんおばあちゃん、近所のおばちゃんおじちゃん、近所のお兄さんお姉さん、子ども会での活動ではなく、自治会での活動ができるよう共感し賛同してくれる人々を増やし、ご近所のコミュニケーションづくり、子育てしやすい町づくりに発展することを願って、活動していきたいと思います。

連携団体

湯の花団地自治会、湯の花団地子ども会

問い合わせ

		 or 
Kosodatenomori.higasi@gmail.com	090-1970-9782 (担当者氏名 ヒガシ)	https://www.kosodatenomorikumamoto.com

活動を始めるきっかけ/活動概要

普段、親子参加型の性教育講座を行う中で「発達障がいをもつわが子には、いつ、何を、どう伝えたらいいか」という質問をよく頂きます。また法人が独自に行った実態調査でも子どもの性的な言動に対して大人がとるべき対応方法がわからない、といった声が多く上がっています。発達障がいは、その特性から人との距離感や暗黙の了解などを感覚的に学ぶことが難しく、性被害に遭う可能性が高いと言われています。また、性的興味をもったときに相手を知らず知らずのうちに傷つけてしまうといった事例も起きています。普段のソーシャルスキルトレーニングの一つとして、性や命、体について学ぶことは何よりの性防犯となり、子どもを守ることに繋がると考えた私たちは、この助成活動で発達障がいをもつ子どもへの性教育動画を制作し、保護者や療育施設職員などの大人に向けて性教育セミナー（オンライン）を届けることにしました。



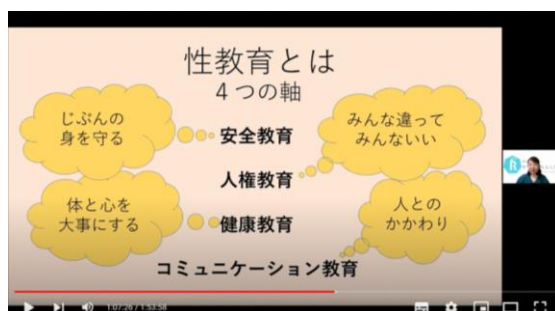
（制作した子ども向け性教育動画から）



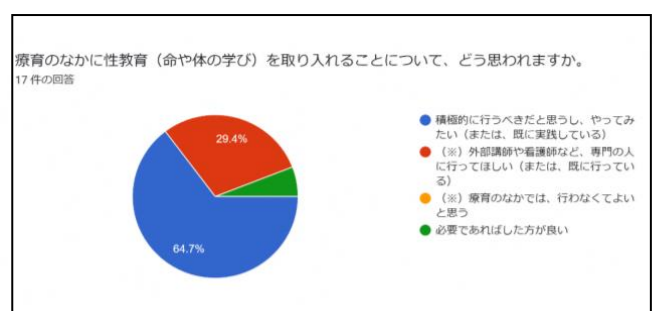
（性教育オンラインセミナー動画から）

重点的に取り組んだこと/成果

子どもの性的トラブルの実態と支援員や保護者の困りごとについて事前にアンケートをとり、現場のニーズに合わせたものにすることに注力しました。オンライン配信という形で行い、事業所研修として16施設が参加、個人参加も18名となりました。事後アンケートでは82%の方に（満足した）と回答いただきました。また、（自信につながった。具体的に、参考にできることがたくさんあった。）などの声を多く頂くことができました。事前アンケートの困りごとの中には専門的な支援の必要な事例もあり、個別に連絡をとり事業所と協力して当該児の支援を継続することになりました。



（性教育オンラインセミナー動画から）



（事後アンケートより一部抜粋）

課題/解決に向けての取り組み

今回の活動で市内185カ所の事業所にセミナー案内を郵送しましたが、参加事業所数が10%に満たず、広報や周知方法の課題が残りました。「性教育」と聞くと、大人は性交や妊娠出産のことを指すとイメージしがちです。そのためか、「小さな子どもに性教育は積極的にすべきではない」という意見も多く、本セミナー開催の意図が十分伝わらなかったのかもしれない。

当法人が普段、幼児や小学生に行う性教育はもっと前段階の「自他の体の扱い方を知り、大切にすることを育てる」教育であり、これは障がいの有無に関わらず全ての子どもたちにとって知る権利があります。まずは子どもを取り巻く大人のみなさんの「性教育」のイメージをポジティブなものにし、性教育がどの子どもにも重要であると認識していただくことが大切であると感じました。そして「性教育」という特殊な事業をしている NPO があること、そして性に関する困りごとを相談できる団体であることを多くの市民の方々に知っていただくことが今後の課題であると感じています。

今後の展開

- ・この事業で相談のあった性トラブルを抱える子とその保護者への支援を継続して行い、療育支援員の方々と共に見守っていきます。
- ・参加された事業所のいくつかは、療育プログラムの中に積極的に性教育を取り入れることを検討していらっしゃるため、引き続き情報交換をしたりサポートを行ったりしていきます。
- ・性教育はコミュニケーション教育や人権教育といった側面をもつことから、療育プログラムの一つとして重要であるという考えをこれからも日々の法人活動の中で広め続けます。

連携団体

- ・放課後等デイサービス「寺子屋一休」「寺子屋一休アドバンス」（熊本市北区）
- ・相談支援センター「絆」（熊本市南区）

問い合わせ

		 or 
seiran.kumamoto@gmail.com	096-323-6070 (担当者) 比留間 浩子	https://www.facebook.com/seishiranshi/ https://www.instagram.com/seishitoranshi_k/?igshid=gyisuaajvolg5

ここサポ

活動を始めるきっかけ/活動概要

ここサポは、市内小学校で児童や保護者の相談を受ける「心のサポート相談員」の勤務時間や配置校数が縮小傾向にあることに危機感を持ち、学校外でもグチや困りごとを気楽に話したりありのままの自分を出すことができる、親も子ども安心して過ごせるような居場所を作りたいとの思いから結成。

核家族が増え地域のつながりも弱くなってきている現代だからこそ、子どもたちが多様なバックグラウンドを持つ人々と関わりを持てる場となるよう、乳幼児から小・中・高校生、働く大人や地域の高齢者の方々まで自由に来られる「みんなの居場所 うちらんち よかよか」毎月2回オープン。

親子の孤立を防ぎ子どもを地域全体で見守る温かい子育て環境を作る事を目指し、東区の公民館や保育園で子どもの遊び場や親の交流の場作り、性教育、野外食事作り等を行った。



〈遊び場〉



〈カフェスペース〉



〈性教育〉

重点的に取り組んだこと/成果

・コロナ禍でも感染対策を講じながら開き続けることで「行き場がなくずっと家で子どもを見ていた」という親子も多く来られた。自然と子育ての中での戸惑いや不安を話されることもあり、「不登校」「発達障がい」など対象を限定しない場であることで「何となく不安…」「どこに相談したら…」と悩みを抱えたり孤立しがちな保護者さんの気持ちを受け止める場所の一つになれてきているかを感じる。

・昨年好評だった性教育を4回にわたって実施。こども達に性の正しい知識を楽しく伝え、保護者さんも子育ての中での戸惑いや不安を相談できる場所となった。トランスジェンダーの方が自身の体験や思いを分かりやすくお話して下さる機会もあり、子ども達にとって教科書上の話ではなく身近な存在として、多様な生き方を知り視野を広げる良い機会となった。

・「マジックショー」「アロマバスボム作り」などミニイベントを企画し多様な活動をする中で、子ども達の興味の幅を広げたり、うちらんちを知ってもらうきっかけになった。講師の方々からも良い体験になったとの感想が多く聞かれ、双方に有意義な時間が得られた。

・野外での食事作りでは、子ども主体で鉈や斧を使ったまき割りから始める火おこしにチャレンジ。自信をつけた子も多く、災害時の備えにもつながる貴重な体験ができた。

・子育て世代に限らず、地域の大人の方が自身の楽しみとして来られることもあり、徐々に応援して下さる方が増えてきていることを感じている。

課題/解決に向けての取り組み

・コロナ禍の中でリアルな(オフラインの)集まりの場であるため参加を呼び掛けにくい面があり、市の公式 LINE や小中学校からの告知など親子に届く拡散力のある広報が行えなかった。オンラインもうまく活用しながら、多くの人に安心して参加していただけるよう、感染対策を徹底していることを広報し、月2回の居場所を維持していきたい。

・スタッフが少なく、企画、広報、物資の運搬など個人の負担が大きい。ボランティアも現在は志成館高等学校の生徒さんが中心となっているが、勉強との両立や体力面など負担もある。協力して下さる方が増えるよう、活動を SNS 等を通じて広く知らせていきたい。

今後の展開

・要望の強い性教育を継続して実施し、子どもも親も性と命について知り、自分も他者も大切にしながら主体的に生き方を選択していけるよう応援していきたい。

・コロナ禍で子どもの体験の機会は狭まる一方でもあり、今後も子ども主体での野外体験やものづくりなどを積極的に進め、子ども達の生活力を育む場を広げていきたい。

・空きスペース等の定点を確保して、気軽に立ち寄れ、宿題をしたり放課後の居場所になるような常設スペースを設けることも目標にしている。

連携団体

せいしとらんし熊本、逢桜の里、志成館高等学校、カトリア保育園、発達障がい者・家族の会 プリズム、TSUDOU.net、フードバンク熊本、泉ヶ丘・若葉校区子育て支援ネットワーク



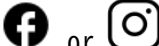
〈アロマバスボム作り〉



〈野外食事作り〉



問い合わせ

		
cocosapo2020@gmail.com	090-4158-6513 (担当者 下田)	Instagram:uchiranchi2020 Facebook:@cocosapo2020

NPO 法人ポピンズくまもと -only connect-

活動を始めのきっかけ/活動概要

「制服の洗い替えが欲しいが、知り合いがおらず困っている」「制服を譲りたいが、少しだけほころんでいて、人に譲るには申し訳ない。しかし、使えるのもったいない。」などのたくさんの保護者の声が聞かれたため、制服を補修・リユースすることにした。



重点的に取り組んだこと/成果

口コミや SNS, 団体の全体 LINE 等を利用して呼びかけ、制服や、その他学用品にかかわるものを集めた。特にリユース会の来場者には、個別にアンケートを取り、具体的に「何センチサイズの何が欲しい」などの希望を聞き、同じ手段で呼びかけ、制服や学用品を集めて、お届けすることができた。また、綻びに関してもチェックを行い、気持ちよく袖を通していただくために、補修後にお渡しすることを徹底した。大変喜んで頂くと共に、継続を希望する声がたくさん聞かれた。

また、保護者向けのカウンセリング講座を 2 回実施。日ごろは忙しく、自分の内面に向き合う機会が少ない保護者の方々から、多くの反響があった。子育ての悩みについて、語り合う機会を得ることは、改めて大事なことであったと実感した。

課題/解決に向けての取り組み

制服が集まってくるが、会としての保管場所がなく、苦慮している。今後は倉庫を準備し、いつ来ても制服選びができるような体制が必要である。

今後の展開

今後はさらに制服選びがしやすい環境を整え、新年度の物販・制服購入が始まる前の時期に、リユース会を行うことを継続していきたい。

連携団体

子育て Reborn プロジェクト

問い合わせ

		 or 
pk.only.connect@gmail.com	070-5274-0762 (担当者 藤山)	https://www.facebook.com/pk.only.connect/

熊本食育の会

活動を始めるきっかけ/活動概要

スーパーに行けば、お菓子、お惣菜、加工食品、様々なものがあふれるほど並んでいます。食べたいものを好きなだけ食べる人、健康志向でいつも食には気をつけている人、いろんな人がいると思われます。そのような中で、正しい情報を知って、栄養バランスの取れた正しい食生活を送ることができれば、子どもも大人も健康に過ごすことができるのではないのでしょうか。

特に子供の食生活は、子どもの脳の発達、心身の健康、さらに大人になった時の生活習慣病にも影響を与えるものですから、とても重要です。安心、安全、栄養バランスの取れた食生活を送ることの提案を「はなまるクッキング」を通してお伝えできればという思いから活動を始めました。

重点的に取り組んだこと/成果

2021 年度は会場閉鎖などの影響がありましたが、年間 6 回の食育クッキングを実施することができました。

食育コーナーの時間は、各回テーマを決め（ミネラル不足の話、食品添加物、トランス脂肪酸、植物性たんぱく質の大切さ、食品添加物とジュース作り実験など）15 分～20 分、映像資料等を使い実施しました。

8 月：子供クッキングとジュース実験を計画していましたが、コミセンが休館となり ZOOM のリモート開催。（1 回実施）

一家族でしたが、子供さん 3 人が積極的に取り組んでくれました。

事前に実験キットを渡して実施したことで、リモートでも実際に参加者のご家庭でジュース作りができ、子供さんも真剣に取り組んでもらえたと思います。

味見をしたり、色の変化を見たり、実際には果物のオレンジは入っていないのにできたことに驚かれ、甘味料、色素は特に子供さんも実際に使ってみて驚かれました。

今後、ジュースやゼリーを食べるときに考えてもらえるきっかけになったと思います。子どもに分かる食品添加物の話を、リモートでもできたことは私たちも大変勉強になりました。

コロナ禍にもかかわらず、クッキングにも味噌作りにも熱心に参加してもらっています。はなまるクッキングを毎回楽しみにして頂き、次回の予約をしてもらい、楽しくはなまるクッキングを実施でき、有意義な活動を続けることができます。参加者が絶えないことでもやりがいを感じながら継続できています。

今後の活動にリモートも積極的に取り入れ、活動の幅を広げていきます。

和食には欠かせない、手作り味噌の良さを伝えるために、味噌作りを実施。（熊本市、池田味噌醸造にて）9 月、2 月、3 月（4 回実施し、うち 1 回は春休み親子味噌作り）実施。延べ 25 名の参加。

11 月には、食育のオンライン講演会、吉田俊道先生、「いただきます 2 オーガニック給食編」では有機野菜作りの素晴らしさをお伝えしました。8 名の参加。有機野菜のことや土壌菌の話

はとても興味深いお話で、自然との共存などたくさんの情報を得ることができました。

12月：石浦章一先生「健康に過ごすための食の秘訣」オンライン講演会上映実施。

（講師プロフィール：東京大学理学系大学院相関理化学博士課程修了理学博士東京大学大学院総合文化研究科教授）

食品添加物とジュースの実験では、安部司先生のジュース作り実験キットを使い実施。参加者自身がよく飲むジュースがどんなものでできているかに驚き、飲む事を止めようと思ってしまうことができました。



課題/解決に向けての取り組み

はなまるクッキングは、定員10名（コミセン対応人員）という人数制限のある中で実施しています。

コロナ禍でもできる形で活動を1年間継続することができ、自信につながりました。

オンラインを活用して活動の幅を広げていくと同時に、今後も会場に参加される方には安心して参加して頂けるように十分な感染防止対策を実施します。

通常会場としてお借りしている、田迎西地域コミュニティセンターの開館の状況が安定していませんので臨機応変な対応をして活動を続けます。

年間を通して、味噌作りは実施していきます。

今後の展開

2022年も田迎地域コミュニティセンターの利用は制限されると考えられますので、子育てに役立つことを考え、食育の講演会のオンライン上映会、また、ZOOMでのリモート食育活動をやっていきたいと考えています。

今後も「安心、安全、そして、簡単で美味しい、栄養たっぷり」をテーマに開催していき、食の大切さと、正しい情報をお伝えしていきます。

連携団体

NP0 法人日本食育協会、NP0 法人福島県食育協会

問い合わせ

		 or 
kyky19562015hhyik@yahoo.co.jp	090-5742-1520 (担当者 横山久美子)	

ほっこり子育てひろば

活動を始めるきっかけ/活動概要

「ほっこり子育てひろば」は、平成29年2月から、飽田地区また近隣住民を対象に活動を始めました。飽田地区は、子育て世代の転入者が増加傾向にあります。しかしながら、飽田地区には児童館児童室も子育てセンターもなく、近隣の施設に頼らざるをえない状況にあります。そこで、飽田地区の子育て家庭に対し、親子で安心できる場を提供し、子育てについて気軽に交流し、子どもの健やかな成長を共に育み、楽しい子育てをサポートする、子育てを支える環境づくりを目的に活動を始めました。

飽田地区の主婦たち（主任児童委員、小学校図書館司書、保育士、幼稚園教諭など）が、月2回の子育て会を開催し、子育て中の親子と一緒に、絵本の読み聞かせや、わらべうたや手作りおもちゃなどで遊び、子育てについて気軽に交流し、また子育てについての様々な講習会を定期的に開催する活動です。

重点的に取り組んだこと/成果

昨年度からのコロナ感染拡大の影響で、4月～9月まで対面での活動ができませんでした。この期間はzoomおはなし会、zoom交流会を中心としたリモート活動を中心に行いました。それと同時に、子育て情報キットを発送しました。

なお、コロナの感染が収まり始めたため、会場である飽田公民館の使用が可能になり10月から対面での活動を制限し（月1回親子5組）始めることができました。



10月再開できた対面おはなし会



12月クリスマス会おもちゃコーナー

<コロナ禍における活動>

①対面でのほっこり交流会

10月よりコロナ感染が落ち着き、活動拠点の飽田公民館が使用可能になりました。そこで、感染リスクを減らすため、活動回数を月1回第3土曜日、午前10時半～11時半まで、予約制親子5組としました。おはなし会を中心に活動しました。毎回5組参加され楽しく過ごし、交流されている姿がうれしかったです。

②子育て情報「ほっこりキット」の発送

春、夏、秋、冬号をそれぞれ4月、7月、10月、1月に発送しました。毎回返信用のはがきには、子ども達の様子や、コロナ禍どんなことをしてお家にいるかなどいろいろ記入されていました。発送の内容は右枠です。毎回24通～27通発送しました。

<ほっこりキットの内容>

- 表紙 ぬりえ
- 裏表紙 スタッフからの直筆のご挨拶
 - ・親子ふれあい遊びのやり方
 - ・おすすめの絵本
 - ・簡単クッキングレシピ
 - ・季節の折り紙折り方
- 手作りおもちゃ ○折り紙
- 折り紙シアター
- 返信用はがき 他チラシ

③zoom おはなし会と zoom 交流会の開催



ほっこり子育てひろば
Zoom 春のおはなし会
4月17日(土) 午前11時～11時30分
参加費無料

<zoom お話会 参加のやり方>
① 参加希望の方は、必ず zoom アプリをインストールしてください。
② 以下メールアドレスに、お名前と参加希望を送信してください。
kitanoehon@gmail.com
③ 後日、zoom 参加用の ID、パスワードをお送りします。
④ 参加当日、午前 10 時 50 分くらいからお送りした ID、パスワードを使ってご参加をお願いします。

Zoom 春のおはなし会 プログラム

※絵本	でんしんがききました	三浦大輔作 豊心社
※絵本	ほしととら	tupera tupera/作 学習教育出版
※絵本	はなさかひさん	教育画劇
※絵本	たまごの料理	アイ企画
※絵本	やむひのうた	本村 理/文 村上康成 絵 ひさかたチャイルド
※絵本	しかけ絵本	かえるがひょう

<お問い合わせ先>
ほっこり子育てひろば 代表 北野裕子
携帯 090-5927-7172

<お申し込み>
プログラムで使用する、絵本、紙芝居、パネル等は、各出版社を通じて著作権者の許諾を得て実施します。
当日の参加はしるを、服装・顔装をしないでも大丈夫。

zoom おはなし会は、4月、9月に実施。飽田公民館より熊本市の Line 広報。常に 10 組以上の参加があり、30 分だが、リピーターもあり、たいへん楽しく開催できました。

zoom 交流会は、初めての試み。8 月に開催。Zoom のライセンスを取得し 1 時間の交流会開催。参加者を親子 3 組に限定。たいへん楽しく、皆さん再度の開催を望まれました。



ほっこり子育てひろば
はじめての Zoom 交流会
～ほっこりおしゃべりしませんか?～
<テーマ>我が家のとっておき絵本
8月21日(土) 午前10時30分～11時10分
参加費無料

<zoom 交流会 参加のやり方>
① 参加希望の方は、必ずスマホ、パソコン、タブレットなど使用する機器に、アプリをインストールしてください。
② 以下メールアドレスに、お名前と交流会参加希望を送信してください。
kitanoehon@gmail.com (メッセージ、電話でも構いません)
③ 後日、メールアドレスに zoom 参加用の ID、パスワードをお送りします。
④ 参加当日、午前 10 時 50 分くらいからお送りした ID、パスワードを使ってご参加をお願いします。

<お問い合わせ先>
ほっこり子育てひろば 代表 北野裕子
携帯 090-5927-7172 メールアドレス kitanoehon@gmail.com
※絵本がない場合は、おもちゃでも大丈夫です！お問い合わせください！

課題/解決に向けての取り組み

○昨年度から行っている「ほっこりキット」の発送は、子ども達の成長に伴い、内容も少しずつ変化させる必要があるのでは、手作りおもちゃは親子で作れるように少しずつ難易度をあげていきました。しかし、お子さんが小学生に上がった家庭からは送付中止を希望されるところもでてきました。

○リモートや郵送では、保護者同士の交流は皆無になるので、今年度は、zoom のライセンスを取得し、1 時間の親子交流会を開催してみました。あらかじめスタッフで交流会の流れをシュミレーションし、子ども達が飽きないよう手遊びや、体あそびも取り入れながら 1 時間やってみました。コロナ禍において、この zoom 交流会はたいへん有意義な取り組みでした。しかし、対面での活動に勝るものはないとも今年度の活動から実感しました。今年度の活動から、今後コロナがまた感染拡大が続くような事態になった場合、zoom 交流会は非常に有効だと思われます。

今後の展開

○コロナの状況が、未だよくわからない現状において、いつ活動拠点の飽田公民館が閉館するかわかりません。いつでもリモート活動と対面活動が切り替えられるように、連携団体と協議し、子育て支援がコロナ禍でも継続できるよう組織的に取り組みたいと思います。

連携団体

○飽田まちづくりセンター 公民館 ○飽田地区民生委員児童委員協議会
○飽田地区親子朗読ハイジの会 ○南区役所保健子ども課 ○飽田地区社会福祉協議会
<問い合わせ>

✉	☎	f or 📷
Kitanoehon@gmail.com	090-5927-7172 (担当者 北野裕子)	

白川小学校親児の会

活動を始めるきっかけ/活動概要

地域の子供達の健全な育成のため、PTAや地域主催のイベント等をバックアップし、子供達が「楽しく遊べる」環境づくりや地域住民や子供達の交流の活発化に取り組んできたが、昨年は、コロナウィルスの影響により、イベント開催が困難になり、密になりやすい活動を避け、カブトムシの幼虫飼育による子供が興味を持ちやすい取り組みを行った。

本年度は、コロナの状況を踏まえながら、カブトムシの飼育を蛹化・羽化の状態変化まで継続し、PTA主催イベント（白川ワンダーランド）で希望する児童への成虫配布を行うとともに交流活発化のために同イベント内で「水でっぼう大会」を協力実施した。

重点的に取り組んだこと/成果

コロナ感染対策として、事業実施に伴う会議や連絡について、ズームやラインを活用しながら、活動時は、事前の検温やマスク着用を徹底するとともにコロナの感染状況を注視ながら、学校やPTAとも連絡調整を行ってきた。

カブトムシ飼育では、4月24日に幼虫が蛹化する前の育成マット交換、6月19日及び6月26日に成虫への羽化後の成虫用ケースへの交換作業を子供達や教員と一緒に実施した。さらに学校内の目にふれやすい場所に成虫用ケースを設置し、学校児童に餌となるゼリー交換を実施してもらった。これらの飼育観察は、子供達が生き物に触れ合う貴重な経験となり、さらに親同士、子供同士、親子それぞれが協力しながら、作業に取り組む機会や場所を提供することができた。

7月24日の白川ワンダーランドでは、飼育したカブトムシ成虫（約150匹）を希望する子供達に配布するとともに夏休みイベントとして、「水でっぼう大会」

を協力実施し、コロナ渦で地域イベントの開催中止が相次いだ中、唯一の参加型の交流イベントとなり、多くの参加者の笑顔を見ることができた。

本年度の事業活動を通じて、会員同士、学校等の協力体制が強まり、今後の取り組みの拡大や充実が期待される。



育成マット交換（4月24日）



成虫用ケースの交換（6月19日）





成虫用ケースの交換（６月２６日）



水でっぼう大会（７月２４日）

課題/解決に向けての取り組み

子供達が「楽しく遊べる」環境づくりという目標は達成できたものの、コロナの影響により、地域や子供達の交流活発化については、取り組めなかった。「水でっぼう大会」では、校区の消防団の協力を得ることができたので、今後、地域の他団体とも連携を図りながら、活性化に繋がるような取り組みを検討する。

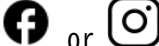
今後の展開

昨年及び本年度の取り組みを通じて、事業実施のノウハウを得ることができたので、コロナの状況を見ながら、地域や学校と協力しながら、本年度できなかった参加型イベントの実施にむけて取り組んでいきたい。

連携団体

白川小学校、白川小学校PTA

問い合わせ

		
Pw3snsd@gmail.com	090-5483-0136 (担当者 西田伸介)	

NPO法人コロボックル・プロジェクト

活動を始めるきっかけ/活動概要

- ・自然や動物が大好きで、個性豊かで（発達障がいほか）やんちゃな子どもたちと、南阿蘇の里やまで川遊びや自然観察、訓練された犬たちと触れ合うことで、生きもの共生（社会）をめざす（やんちゃキャンプ）
- ・夏（7/24・25、子ども5人・大人4人：4家族、スタッフ5人、訓練犬1頭）・秋（10/23・24、子ども5人・大人2人：3家族、スタッフ9人、訓練犬4頭）・冬（12/18・19、子ども2人・大人3人：2家族、スタッフ8人、訓練犬3頭）。カイハラ動物病院保養所周辺で実施。



重点的に取り組んだこと/成果

① 安全・安心に活動できるプログラムづくり

- ・新型コロナウイルス感染防止：主催者対応（電子体温計や消毒薬の準備、資料・食材等の個別配布）と参加者への協力依頼（健康状態の確認、マスク着用、三密への対応、使用物の共用不可、緊急時の対応）の共通理解・徹底のもとで、家族ごとのテント泊で実施。
- ・新規参加者：LINE Gでの広報により、夏・秋・冬ともに新規2家族。犬とのふれあい活動では2家族が3回とも参加で、2回目以降は犬に対する丁寧な対応。



② 安全・安心に活動できる支援体制づくり

- ・感染防止のため参加者・家族数制限。自然体験指導・犬とのふれあいスタッフの精選



課題/解決に向けての取り組み

- ・四季折々の実施（夏・秋・冬ともに実施）
- ・活動内容の充実（夏：川での活動、ストーンアート、星の観察。秋：里やまの宝探し、ドングリ工作。冬：未来プランづくり、クリスマスリースづくり。）



・「生きもの共生教育」の共通理解：（アンケートによる）

（子ども）一番犬と友だちになれたから冬がたのしかった/夏秋冬全部楽しかった。

（家族）里やま宝探し：毎日の生活の中で大自然にふれることがないため、季節ごとの木の実を探すなど、子どもにかえったような気がしてワクワクしました。

（家族）普段は私にべったりなのに、やんちゃキャンプでは自分の興味のある方へ行けていた/年長者ぶりや新しいことに意欲的な娘を頼もしく思いました。

（動物スタッフ）犬とのあいさつの仕方、近づき方を覚えていてくれて、それを言葉で伝えられることはすごいことだと思う。

（動物スタッフ）犬をなでる時わざわざ手袋を脱いでくれたＹくん、りん(犬)が枝につまづかないように気を使って歩いてくれ、本当にやさしい心遣いに感謝します。



（子育て研究家）外遊びの職人に近い大人が関わるという人的環境、今回の試みは子どもの潜在能力をプラスに引き出すことに成功しているように思われる。

今後の展開

・四季を通した活動での「生きもの共生教育」の発展

・創発的カリキュラム作り

・withコロナ時代のキャンプ

連携団体

・動物介在教育チームカイハラ

・相互支援の会スマイルハート

問い合わせ

		 or 
Kaibara29@yahoo.co.jp	090-2962-8668 (担当者 甲斐原)	LINE(gan2954)

特定非営利活動法人 教育支援プロジェクト・ マスターズ熊本

活動を始めるきっかけ/活動概要

本 NP0 は、子どもを取り巻く環境が複雑化し、教師や保護者のみでの取り組みだけでは子どもの真の健全育成が不十分であり、学校教育外での子育ての支援も必要であると考え、長年活動を行ってきた。その中でも子育て中の保護者が日頃の悩みや不安を少しでも軽減するために今、問題になっている事柄をテーマに親同士が集い話し合い、学び場の提供を行っている。

重点的に取り組んだこと/成果

今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大防止の可能性があるためその都度に臨機応変に対応できるようオンライン参加と会場による講座の両面で計画を行った。そのため会場参加は、収容人数を広めで準備し、人数を5名以下で参加とした。

コロナ禍で外世界との接触機会が減少したことで、家族時間は増えたものの子育ての孤独感やこれからの子育てへの不安は強まったという方も少なくない中、子どもの発達プロセスにおける行動や感情を教育の専門家から学び、子育て中の保護者とオンラインでつながって互いの感情コントロール方法を知り、分かち合い「良好な親子関係」のきっかけとなるようなプログラムで6回にわたって講座を行うことにした。

各回でのワークショップには、熊本市家庭教育地域リーダーによるファシリテーターを配置して参加者の意見や思いを引き出していくことにした。

《 参加者からの感想や意見 》

☆気軽に ZOOM で参加ができて良かった！

☆同じ悩みを持った子育ての人の意見を聞いて自分だけでないと共感と励みになった！

☆講師の話が自分にピッタリで当てはまり、良い気づきとこれから活かせることが多かった。

☆講師の先生の言われたこと全てが自分にピッタリ当てはまるところがあり、子育てにおいて、この講座で習ったことを生かしていきたい!と強く思いました。何回か参加させて頂きましたが、どれも本当に良い内容でぜひまた宜しくお願い致します。



参加者の方の要望でお子様のそばで託児を行い、会場とオンラインと両方を同時に行いました。コロナまん延防止を配慮し、オンラインのみの回もありましたが、進行役を配置してグループに分かれて課題に沿ったワークを実現しました。

《 参加人数 》

①1 回目 20 名 ②2 回目 28 名 ③3 回目 26 名 ④4 回目 23 名 ⑤5 回目 24 名

⑥6 回目 18 名 延べ人数 139 名

課題/解決に向けての取り組み

オンラインでの講座運営にも慣れてきたものの機器に関して精通するスタッフ不足があるため今後もスタッフのスキルアップが必要である。

各回とも参加者からそれぞれ日頃の悩みが出され、オンラインの中でチャットなどの機能を使いそれに対して、講師から適切なアドバイスをしてもらうことができた。

身近な相談相手がいることで、深刻な状況になることを防ぐことができそうだと実感した。

本講座を通して、人とのつながりができ、相談窓口を知ってもらうことができれば、講座が更に有意義なものになると考えている。回ごとのチラシを作成し、それぞれの内容や講師の紹介などさらにアピールして行きたい。

今後の展開

- 1, 食育の講座 2, 父親向けの講座 3, 共働きでの子育ての講座
- 4, 子育て世代向けのマナーセミナー また、引き続きアンガーマネジメントや不登校について

など今、直面して子育てに悩み不安を持った方に向けて講座を企画し運営して行っていきたい。

開催の内容や講師の紹介



子どもの発達プロセスにおける行動や感情を教育の専門家から学べる「親の力スキルアップトレーニング」を企画しました。子育て中の保護者同士つながり、互いの感情コントロール方法を知り「良好な親子関係」のきっかけとなるようなプログラムです。必要な情報を得ることで子育てを、今よりもっと楽にできるヒントをみつけて、親としてのスキルアップをしませんか？

ZOOM 初心者でも大丈夫ですよ！ 一人で悩まず、みんなと話そう♪

開催日	内 容	会 場
7/24 (土)	「親が知らない子どもたちの SNS・ゲームの今！親子で納得できるルールのつくり方」 講師 村上 奈美氏 《パソコンスクールマリオネット代表》	バレーまたは、オンラインZOOM講座
8/28 (土)	「感情のコントロールで笑顔の子育て・アンガーマネジメントを学ぶ 基礎」 講師 堀川 香代氏 《株式会社カウンセリングルームららぽーと代表》	
9/11 (土)	「感情のコントロールで笑顔の子育て・アンガーマネジメントを学ぶ 実践」 講師 堀川 香代氏 《株式会社カウンセリングルームららぽーと代表》	
10/2 (土)	「家族・子ども大切な人との心に寄り添う傾聴」 講師 結方清美 《教育支援プロジェクト・マスターズ熊本》	
10/30 (土)	「親も子どもどっちも悩んでいる～子ども「学校に行きたくない」に向き合う方法～」 講師 古閑 智子氏 《Kei こころの相談室代表》	
11/13 (土)	「あなたが楽になると、子どもはもっと輝ける！アサーティブ・コミュニケーション」 講師 知識 茂雄氏 《株式会社ハート・ラボ・ジャパン代表》	

※ファシリテーター（進行役）が進めるワークショップを取り入れた楽しい講座です。

問い合わせ

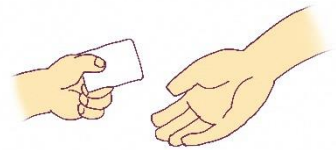
✉	☎	f or 📷
mastarskuma@gmail.com	050-3553-3683（担当者 民長博美）	

ひごPecsサークル

ひごPECS
サークル

活動を始めるきっかけ/活動概要

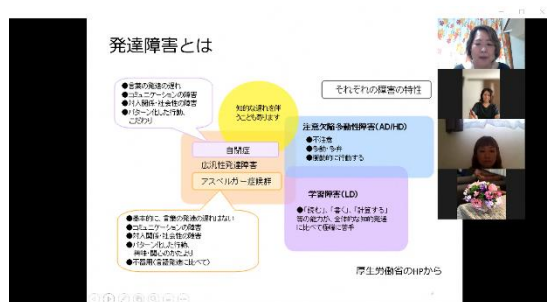
自分の気持ちを伝えることが難しい子どもたちに『コミュニケーションは楽しい』と思えるような指導法や療育方法を実践していきます。手話などと違い、誰にでもわかりやすい絵カードなので、いろんな人とのコミュニケーションができるようになります。また、子どもたちの中には問題行動を起こすことがたびたびありますが、相手に伝わる伝え方を学ぶことで落ち着きが増え、穏やかに過ごすことができるようになり、自分から問題解決することを学ぶことで自分に自信がつき意欲も高まります。



また、子どもたちが取り組みやすく、保護者も導入しやすいiPadでのコミュニケーションのPecs指導も行っています。

重点的に取り組んだこと/成果

- 本年度はコロナ感染拡大予防のために、ZOOMでの勉強会開催をしています。今年からPecsを始められたお子さんのお母さんのために、Pecsの基礎や導入の仕方をわかりやすく学べるように取り組みました。
- 発達障害のお子さんのために、発達障害の特性などを学びながら、Pecsの使い方を学びました。
- お母さん方には、日頃の困り感を話していただき、悩みを共有したり、他のお母さんの話を聞くことで安心出来たり、ホッとすることができたようです。



課題/解決に向けての取り組み

- コロナ禍の中、広報活動があまりうまくいかなかった。
- ZOOM開催だと実際に体験していただくことができなかった。
- 初めての母さんだったり、すでに何年かの経験があるお母さんたちとのスキルの差があると、勉強会の進め方も難しい面があった。

今後の展開

子どもたちのコミュニケーション力を育てることは大事であることをお母さんたちに知っていただきたいと思います。正しく対応することで、発達障害の子供たちが、いろんなスキルを身に付けながら社会の中で自分らしく暮らしていける未来を創るお手伝いをしていきます。

連携団体

- ピラミッド教育コンサルタント オブジャパン
- NPO法人就労特化型支援団トリニティ

問い合わせ

		 or 
pecs@npo-trinity.jp	096-282-6035 (担当者) 大塚	 ひごPecsサークル @pecs1972

プラダー・ウィリー症候群の子を持つ有志の会

活動を始めるきっかけ/活動概要

- ・1万人から1万5千人にひとりという国指定難病のため、現在九州、熊本には支援する団体が少なく、熊本に PWS の支援団体として立ちあげ、7年目になる。
- ・毎年 PWS 患者、医療、行政、全ての関わる方々と共に活動を進めてきた。県内外からも必要とされる方々がまだまだ多く、患者家族だけでは支えきれない現状がある。今後も、ひとりでも多くの方々に周知し、他の連携する団体含め、様々な方々と共に会の存続が必要とされる。



重点的に取り組んだこと/成果

- ・コロナ禍の中、できることは何なのかをスタッフと共に考えてきた。
- ・会員をただ増やすことが目的ではなく、ひとりひとりの家庭の中に見え隠れする諸問題に支援の体制を行き渡らせることが必要。そのために、ひとりひとりが通う学校や入所しているホーム、関わる支援員、また行政にも、この病気でどれだけ家庭の中での支援が必要であるかを知ってもらう必要があることを、伝え続ける講演や研修を行った。

課題/解決に向けての取り組み

上記と同様の内容を必要とする。今後は Web での開催が多くなると思われる。同時に、個々への関わりや交流が減ってしまうのが現状。各患者が孤立してしまわないように、ことばかけを行っていきたいと考える。

学校や、個人から必要とされる団体であり続けるために、学ぶ機会を提供する。

今後の展開

連携団体

- ・ 児童発達支援事業所 親と子サポートセンター
- ・ 医療法人美里みどり会 間部病院小児科 間部裕代医師
- ・ プラダー・ウィリー症候群 新潟有志の会

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
pwsa37@yahoo.co.jp	（担当者氏名）久保なお子	

学校法人熊本YMCA学園

活動を始めるきっかけ/活動概要

「子育て広場わいわい」との名称の下、子どもと共に外出する機会が少ない0歳～3歳までの乳幼児と保護者が、気軽に様々な分野の活動に参加することを通して、社会との繋がりを持ち、子どもと共に楽しい時間を共有することで、子育てがより充実したものとなることを目指し活動に取り組んだ。活動を進める上で、熊本YMCAと繋がる様々な専門性を持ったスタッフや学生、留学生等が協働することにより、独自の子育て支援の場の提供を目指した。

○中止した事業：親子触れ合いリトミック（8・9月予定→延期・中止）

留学生との国際交流（8月予定→延期→中止）／子育てサロン（中止）

○実施した事業：◎DAN パネ団 なべさんの元気いっぱいパネルシアター

・2021年7月24日（親子9組・子育て支援関係の一般の方4名 計28名）

◎子育て広場わいわい クリスマスを楽しもう！

・2021年12月15日（水）（6組）

・2021年12月17日（金）クリスマスの制作（8組）

コロナ禍において、法人全体で不特定多数の方と触れ合うことを制限する日々が続いたこと、また、留学生や専門学校生も、授業や実習が延期になり、子育て広場担当スタッフが対応に追われ、なかなかスケジュールを組むことが難しかったが、やっと見通したついたところ、再び、感染拡大傾向となり、活動を縮小せざるを得なくなった。



お家で遊べる
小道具紹介



DAN パネ団
なべさんの元気いっぱいパネルシアター



保育を学ぶ学生ですが、子どもたちと触れ合う機会が例年よりとても少なく、保護者の方と触れ合いは初めてなので緊張していました。とても貴重な経験になりました。



親子であそぼう～クリスマス

重点的に取り組んだこと/成果

親子が安心して過ごすことができる場所の提供を心掛けた。そのため、入り口での検温、消毒薬の設置、十分な換気と運営スタッフのマスク着用と参加者との適切な距離には気を遣った。

今回、大分在住の渡辺繁治さん(パネルシアター作家。パネルシアター劇団「DAN パネ団」主宰)との良い出会いがあり、休日に実施し、父親の参加も多くみられた。親子で過ごすというと、母親と子どもの機会が多くなるが、今回は演者も男性であったこともあり、父親も気軽に話をされている姿がみられた。また、外出制限が続いても、自宅でできる親子遊びの提供を行うことを心がけた。これから先、広場が開催できなくても、様々な工夫で遊ぶことを保護者に知っていただくことにより、ステイホーム中も楽しく子育てを行っていただければと願い取り組んだ。DAN パネ団のパネルシアターや学生による創作劇の公演など、子どもたちが楽しめる内容のYouTubeの動画配信、拡散を、熊本YMCA学園のインスタやHPを使って行い、家庭で過ごす親子に遊びの機会の提供を目指した。

課題/解決に向けての取り組み

当初予定していた、熊本在住の外国籍の子どもとの交流については、留学生が入国できず、オンライン授業などの対応のため、担当をお願いしていた方の負担が増加したことにより、今年度は新しいことに挑戦することができなかった。それでも、新しい出会いもあり、父親の参加があったことは喜ばしいことだった。夏に感染者が増え、休園などが続いたが、秋には落ち着きを取り戻したため計画し直し、やっと12月に開催できた。1月の準備も進めていたが、叶わなかった。昨年度に引き続き、感染対策を行いながらの運営になるとは考え、ある程度見通しを持った運営計画を心掛けてきたが、突発的な事柄に対応できるスタッフが不足し、活動計画、運営を行う人員が割けなかったことが、今後の課題として残った。今後はイベント的な関わりだけではなく、定期的開催し、いつでも、継続して参加できる活動として継続していきたい。

今後の展開

気軽に子どもの発達について話す場が欲しいという声が聴かれ、実際に発達について相談いただく機会もあった。子どもの発達に悩みを抱える保護者には、イベント的な関わりだけでは、なかなか寄り添うことができないと感じたため、今後は定期的に話をする場の提供と、悩みを相談できる体制を取りながら、気軽に、子どもの成長を喜びあえる取り組みを続けていきたい。

連携団体

特になし

問い合わせ

		 or 
suizenji@kumamoto-ymca.org gakuin@kumamoto-ymca.org	096-362-4141 (担当者：西本 愛)	

子育てネットワーク「縁側 moyai」

活動を始めるきっかけ/活動概要

- ・名称 おいでよ moyai フェスタ
- ・開催日程 2021 年 12 月 10 日（金曜日）・12 月 11 日（土曜日）
- ・開催時間 10：00～12：00、13：00～15：00
- ・開催場所 新産住拓株式会社本社 3 階ホール
- ・実施内容 子育て中のママ・パパを対象としたワークショップと物品販売
- ・主催 子育てネットワーク「縁側 moyai」

重点的に取り組んだこと/成果

◆実施実績

- ・期間中来場者数 二日間のべ 150 名（80 組）

2 日間にわたりのべ 80 組、150 名の家族に参加していただきました。今回は、縁側 moyai という子育てネットワークの活動にまだ参加したことのない子育て世帯を主なターゲットとして告知し集客を行いました。感染防止対策という点で参加については事前申し込み制、時間帯ごとに入れ替えという非常に限られたなかでの開催となりましたが、ただでさえ産前産後という孤立しがちな環境にある子育て世帯へつながる場の提供ができました。

来場者からは「コロナ禍で地域の子育てサークルや公民館・児童館が閉鎖され、今回初めてこのような場に参加した」や、「なかなか一歩踏み出すきっかけがなく、家に母子でこもりきりだったが今回勇気を出して参加して本当によかった」といった声が多数聞かれ、開催の意義を強く感じました。今回熊本県から後援をいただくことができ、申し込みをされた方から、熊本市の後援イベントということで安心して参加できたという声が聞かれました。



課題/解決に向けての取り組み

今回運営に関わった運営スタッフすべてが縁側 moyai の子育て中のママたちです。また、イベント当日は地域や学生のボランティアも多数参加してくださり、こうしたイベントに関わることで、助け合い＝共助というつながりの輪が循環し、子育てはつらいものではない、ひとりで抱え込まず、みんなでいっしょに子育てしよう、という縁側 moyai の活動理念がより多くの子育て世帯へ波及していくことが見込まれます。

今後の展開

今回は両日どの時間帯も申し込みが定員に達し、キャンセル待ちを受け付けるほど盛況でした。来場者や運営スタッフから、ぜひ次年度も開催してほしいという声が多数上がっており、次年度以降については開催規模の拡大も視野に今後も継続して開催していきたいと考えます。

連携団体

・協賛 株式会社有明楽器・医療法人伊東会 伊東歯科口腔外科病院
株式会社えがお・株式会社亀井ランチ・株式会社キューネット
GoodLuckPhotoWorks・熊本伝統の抱っこおんぶ紐グランモッコ
有限会社コデラ・株式会社再春館製薬所・桜十字グループ
重光産業株式会社・新産住拓株式会社・株式会社セルモ
株式会社永田パン・株式会社ヒライ
お母さんの安心と勇気を育むイロトリドリ・きらり・熊本ヤマハ株式会社
心と体繋ぐさろんしーそー・こだわり家 KitchenLAB 無垢 ふくとく大成株式会社
・後援 一般社団法人 熊本県助産師会・熊日・熊本市・KAB・KKT・RKK・TKU

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		 or 
engawamoyai@gmail.com	090-7924-8902 (担当者氏名) 久保	HP: https://engawamoyai.localinfo.jp/ Facebook : https://www.facebook.com/engawamoyai Instagram https://www.instagram.com/engawa.moyai

NPO 法人子育て支援ワーカーズペペペらん

活動を始めるきっかけ/活動概要

核家族化した子育てが電子メディアによって変化するなか、乳幼児からの言葉環境が歴然と悪くなっています。子どもたちの健全な育成は、乳幼児期から始まります。大人がしっかりと関わることが人間の子どもを人間らしく育て上げていきます。それらのことを知ってもらうことで、真の意味での豊かな子育てをサポートすることを目的とします。

重点的に取り組んだこと/成果

新型コロナウイルスで行き場のない親子の助けになれるように取り組みました。同年代の子育てするお母さんたちの出会いの場ともなり、子どもたちも刺激しあい成長を見せてくれました。

わらべうた、あそびうた講座に参加されたお母さんは、うたいながら動作をすることを新鮮にとらえられていました。

また、わらべうた講座に参加されたお子さまは、いつも聞きなれない音調のうたに耳を澄ませて聞いている様子がよくわかり、笑顔で楽しませていました。

絵本講座は、「絵本の事が何もわからないので勉強させてください」と、はりきって来られる参加者もおられました。講座に来られるかたはとても熱心に参加されていますので、ボランティア活動等に活かしてほしいと思います。



◆キッズルーム

毎月 第1・3 木曜日

- ・みんなが大好きな絵本！
- ・にっこにこの笑顔で聞いています。



◆赤ちゃんのための

わらべうた・あそびうた講座

- ・初めて聞くわらべうたに
- お母さんも真剣にきいています。



- ◆子どものための
わらべうた・あそびうた講座
・わらべうたで使う小道具を製作しています。



- ◆絵本講座
・季節に合わせた絵本の紹介
・歴史の絵本についての講座を開催しました。

課題/解決に向けての取り組み

お母さんが安心して出かけられる場所の提供を心掛けました。感染させないようにコロナ対策も徹底しました。

今後の展開

行き場のない親子がつどえる場所の提供を、これからも開催していきたいと考えています。子育ての悩みを解決できるような、場所や講座を開催し、お母さんの笑顔、子どもの笑顔を増やしていきたいと思ひます。

連携団体

特になし

問い合わせ

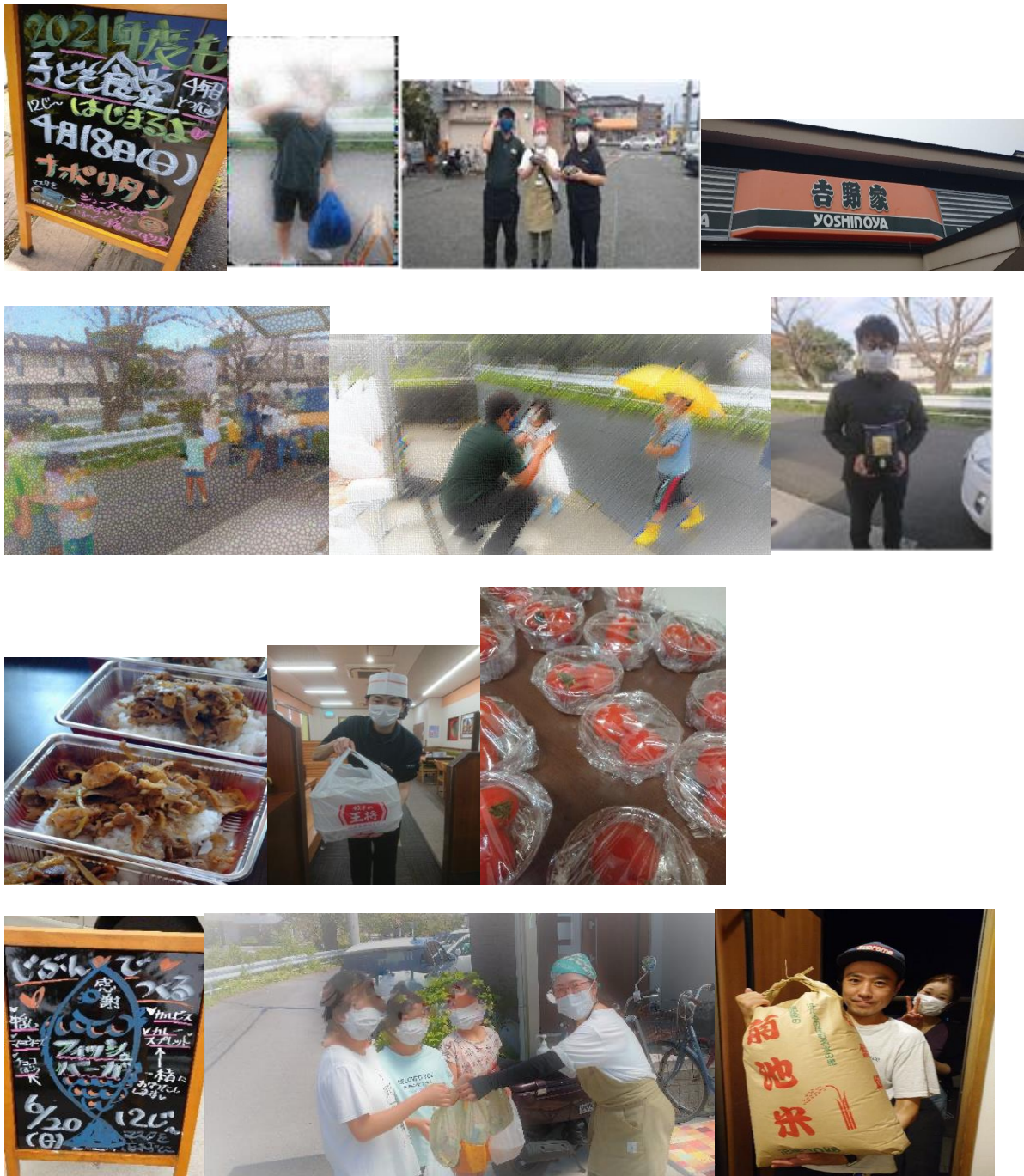
✉	☎	f or i
mail@pepepeperan.com	096-337-0450 (担当者) 椎葉 信子	

NPO 法人くまもと相談所

活動を始めるきっかけ/活動概要

一人の女の子との出会いです。自分自身の目の前にある生活が全てではなく、こんなにも小さな身体で色々な課題を抱えている姿に、自分自身、何かできることはないか考えました。それが、その子が、我が家に子どもを迎えに来てくれた際に「一緒に朝食を取る」ということでした。

その延長で、今の活動があります。



重点的に取り組んだこと/成果

コロナ禍での活動ですので、感染対策を第一に考え「会食」ではなく「配食」としました。本来ならば和気あいあい話しながら、笑いながら会食をしたいところですが、まだまだその形での開催には自信がありません。

しかしながら、できる限り子どもの目をみて、声掛けをするようにしています。

課題/解決に向けての取り組み

今となっては配食も定着しつつありますが、会食が可能となった場合、開催場所をどこにするか考えます。

コロナ前は、校区自治会様、老人会様のご協力をいただき「老人いこいの家」を使わせていただいておりますが、最近では、食材、野菜、物品等たくさんのご寄付をいただくことができるため、当日のメニューと合わせ、それを自宅から搬入するのも大変だと感じています。

是非「公設の子ども食堂」を小学校区に最低でも1か所開設していただきたいです。そこで、ご寄付いただいた物品の保管も合わせてさせていただきたいと思います。

今後の展開

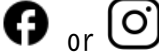
しばらくは、自宅前で「配食」を実施してまいります。

また、子どもたち自身に「生きる力」を身に付けてほしいと考えていますので、野菜を育てる⇒収穫する⇒調理する（どのように食するか考える）などの活動も入れていきます。

連携団体

- ・子どもから地域へ拡がれネットワーク
- ・フードバンク熊本
- ・各企業様、地域の皆様
- ・イオン様等

問い合わせ

		
kuma2soudan@gmail.com	080-2784-3661 (担当者山口)	NP0 法人くまもと相談所 (フェイスブック)

学習支援センター 大江子ども食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

学習支援センターでは、県内の多くの不登校・ひきこもりの子どもたちが自分の居場所として通ってきますが、多くの家庭が生活困窮しており、少しでもこどもたちに食事をする喜びを味わってもらいたくて始めました。毎月2回 第2、第3の土曜日に実施しています。調理、盛り付け、配達など小学生から大人まで、自主的なボランティア活動として実施しています。



重点的に取り組んだこと/成果

現在は、コロナ禍のため会食が難しい現状ですので、弁当を用意して事前に予約を受けてテイクアウトやデリバリー形式にして実施しています。当初は、注文も少なかったけれど、少しずつ地域との繋がりが生まれています。県営団地の孤独死問題を知り、大江校区の社会福祉協議会と連携し、お年寄りにお弁当を配達して併せてお声がけによる安否確認を行っています。配達ボランティアスタッフは、小、中、高生及び大学生が自主的に行っています。お年寄りと若者が交流することによって、世代を超えた関係性を構築することができている。若い世代は、ボランティア活動を通じて様々な社会問題に気づき、将来の進路選択のきっかけとなっており、お年寄りは、我々の訪問を日々の生活の喜びの一つと感じていただいています。地域との結びつきは、このような地道な活動の積み重ねによって形作られていくものと思われます。

課題/解決に向けての取り組み

一番は、運営する上での資金集めです。営利活動ではないので、寄付や助成金にたよるしかないのが現状です。次に地域のネットワークづくりだと思われます。どこに困窮している人たちがいるのか。行政と民間がうまく連携するための広報活動が必要だと思われます。

今後の展開

今は、学習支援センターの大江校だけの活動ですが、今後は県内に広がりつつある他の分校にも子ども食堂の施設を設けて、県内にネットワークを拡大していきたい。どの地域にも困窮する家庭があり、子どもたちに限らず、お年寄りまで支援の輪を広げていきたい。

連携団体

グリーンコープ、フードバンク熊本、J A熊本

問い合わせ

		 or 
bansek9@yahoo.co.jp	096-288-4482 (担当者) 仙波 達哉	Kisc.jp

縁側サロン竹ちゃんち

活動を始めるきっかけ/活動概要

2013 年より「孤立しない育児支援」を目標に掲げ子育てサークルを設立。核家族化が進む中地域との関わりも少なくなり、子育て世代には生活しにくい環境にあると感じ、子育て世代と地域との交流を深められる居場所の提供と食を通じての多世代交流の居場所になればと、2016 年より子ども・地域食堂へと広げた。又、第 2 の拠点として、西区松尾にて地域食堂を 2021 年 12 月からスタートした。

南区自宅開放：月 2 回 第 4 水曜日・土曜日 昼食提供大人 300 円子ども 100 円

西区松尾賃貸拠点：月 4 回 第 1・3 水曜日、第 1・3 土曜日 ワークショップや昼食の提供。土曜日は、夕食の提供、学習支援、放課後の居場所。

重点的に取り組んだこと/成果

コロナ禍の続く中、利用者（ひとり親家庭を含む）が増えた。会食ができない環境にあるため、弁当やおかずの配布、支援物資等の配布が主となる。地域の民生委員さんの協力もあり、子どもや困り者のみではなく、高齢者への食（弁当）支援が増えた。途中より、弁当と会食の配布を取り入れ、子育てママたちの居場所、交流の場を少人数で使用してもらった。コロナ禍において、子育て中のお母さん方が遊びに行ける場所、相談や困り事、育児不安を話せる場所がある事に大変喜ばれた。子どもと二人で昼食を摂っていたお母さん方も皆で食べる事で、子どもの食欲への変化などを見ることができて良かったと感想があった。



課題/解決に向けての取り組み

当活動を知っている利用者は活用できるが、まだまだ支援を届けたい子育てママや地域の皆さんが存在していると感じる。地域、近隣の民生委員、主任児童員、保健師さん方とのつながりがうすいため、地域の中で情報発信などできる機会がないかと思う。今年度より、当代表も主任児童員になった事もあり、連携ができていくことを希望している。当団体の活動をまだまだ知らない子育て世代や、地域の高齢者の方々へ伝えていけるよう区役所やまちづくりセンター、保健師さんとの連携体制を少しずつ図っていききたい。

今後の展開

主に、子育てママたちの支援とし、お母さんたちのゆっくりとした時間を作れるよう、活動の回数を増やし、第2の拠点においては月4回と居場所を広げたことで、現自宅開放に加えて支援者（利用者）が増えることを望んでいる。西区の拠点の充実に努め、放課後の子供たちの居場所もつくれたらいいなと思っている。

連携団体

熊本県こども食堂ネットワーク、フードバンク熊本、キワニスクラブ（子ども食堂委員会）、子ども会、老人会、自治会、民生委員主任児童員（南区、西区）、全国食支援活動協力会、全国子ども食堂支援センター「むすびえ」、熊本県ひとり親福祉協議会

問い合わせ

		 or 
merimero0412@gmail.com	090-5726-2504 (担当者竹下 紀子)	@ouchiRanchi (南区) @kasanRanchi (西区)

みんなの食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

活動を始めるきっかけは、一生懸命働いても生活がギリギリなんです・・・というご近所のひとり親家庭の方のお話を聞き、何か出来ることはないかという思いが活動を始めるきっかけでした。

活動の概要は、共助を必要としていらっしゃる方の手助け・子ども達に食に関する興味を持ってもらうこと・孤食予防・地域の幅広い方々の交流の場の提供などを活動の目的としました。

重点的に取り組んだこと/成果

コロナ禍という状況になり2年目に入り、4月は「コロナ疲れ」という言葉が多く聞かれるようになっていました。なにか心がわくわくする事が出来ないか！との思いから、親子でハーバリウム教室を行ない、笑顔がいっぱいになり帰る親子や、1人暮らしの老人の方が、たのしい～とおっしゃり3本も作って楽しんだ様子を見て、コロナ禍でも楽しめる企画を衛生面に注意してできるだけ行おうと今年度はスタートしました。去年に続き、子ども達に料理を作るきっかけを提案することも忘れずに1年間活動しました。

4月はハーバリウム教室(2回)、6月はお弁当パントリー、8月はミニ夏祭り、10月はハロウィン秋祭り、12月は11日の臨時パントリーと25日のクリスマスケーキ作りなどできる限り子ども達が楽しめる企画を行ない、奇数月の5月(19日・28日)、7月(11日・17日)、9月、11月、1月は応援ご家庭(ひとり親家庭、コロナで家計が大変なご家庭、一人暮らしのご老人、何らかのご事情があるご家庭)に弁当配布やパントリーを行いました。

今年度の活動は6回の開催予定でしたが、スタッフの方々の頑張りとお助成金やご寄付のおかげで予定の倍以上の15回(2月予定も含む)行ない、子ども延べ人数320人大人延べ人数141人が参加しました。

ハーバリウム作り



夏祭り

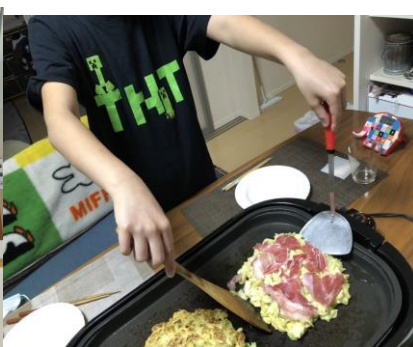


クリスマスケーキ作り





ハロウィン祭り



初めてのお好み焼き作り



デコ歯ブラシ作り

課題/解決に向けての取り組み

コミセンが閉館してしまったときに、コミセンの玄関前をお借りしてパントリー支援を行いました。お弁当などを作る場所の確保が大変でした。コミセンが利用できない時に、どのように活動継続させていくかなどが課題になりました。

また、今年度も様々な方から情報を頂き、共助を必要としている方に繋がる事が出来ました。ほとんどの方が、子ども食堂の事を知りませんでしたし、自分が参加できるとは思わなかったとも話していました。もう少し間口が広いイメージに子ども食堂になるようにお伝えしていかなければと思いました。

今後の展開

終息が見えないコロナ禍で、やれることを、安全に気をつけてやっていくしかないと思います。

昨年同様に臨機応変に対応して子ども食堂の運営をしていきたいと思っています。

連携団体

フードバンク熊本、逢桜の里、フードバンクひのくに、キッズネットちやとわ
託麻西自治会、たくとう子ども食堂、ほがらか食堂、榆の木子ども地域食堂なごみ

問い合わせ

		
Fan1515minnna@gmail.com	09052953170 (担当者) 齋藤直世	minnanoshokudo

ほがらか食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

自分にできるボランティア活動をしたいと思っていて、子ども食堂のことを知り、働くお母さんや地域の方々の居場所になればと思い始めました。



重点的に取り組んだこと/成果

今年度はコロナウイルスの状況を見ながら、パントリープラスとして子供たちに喜んでもらえる企画を立てて、4月は紙芝居・パネルシアター、7月はミニ夏まつり、12月はクリスマス会、1月は健康講座を行いました。

コミセンが封鎖になり駐車場を借りて開催することも何度もあり、計画通りに進まないこともありましたが、地域の方々からの支援や認知も少しずつ増えてきました。

課題/解決に向けての取り組み

コミセンが封鎖になると広報も控えていたので、毎回チラシで支援者と開催日を伝えています。

今後の展開

食事提供ができるまでは、パントリーと子どもたちと遊べる事を企画して、いつでもだれでも気軽に参加出来る居場所づくりを続けて行きます。

連携団体

TSUDOU・NET

逢桜の里

楡木子ども食堂なごみ

食育体験！たつだこどもカフェ

みんなの食堂

たくとう地域食堂

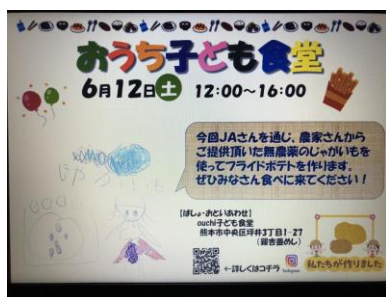
問い合わせ

		 or 
a38suzei4yb4462u2dmb@docomo.ne.jp	090-5928-3772	http://www.facebook.com/tamikn.suetugu

ouchi 食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

子ども食堂の会場でもあります、飲食店でお餅つきを開催した際に、60人程親子での参加がありました。その事をきっかけに、『文化と子ども』『町と地域』人と人を繋いでいく事を意識する様になりました。保育園、老人ホームでの栄養士の経験を地域で活かし、子ども達が個々に主体となり楽しめる空間を『食』を通して提供する事から、町作りのきっかけになりますようお願いを込めて活動しております。



重点的に取り組んだこと/成果

コロナ禍でも、子どもたちが楽しいと感じられる仕掛けを『食』を通して実行していくことです。ルーテル学院高校、ルーテル学院大学、熊本大学の学生さん達にもボランティアのお力添えをいただき、幼少期の子ども達との交流となり、お互いに仕え合う気持ちの芽生えとなるよう繋いでいくことです。歳時を意識して、食材に触れること、成り立ちの過程、そして道具、五感を使い体験を通し、温故知新を食から感じ取ってもらう事です。成り立ちにはルーツがあります。ルーツは戻れるところがあります。

ルーツをなくしては生きづらくなります。成り立ちの過程を大切に出来る事を意識して、企画をしています。また、寄贈される食材を少しでも地域の高齢者の方々にもお届けできるように、地域包括支援センターの方々にもご協力をいただきました。

課題/解決に向けての取り組み

解決へ向けての取り組み

●『誰一人取り残さない』

核家族、一人で暮らす高齢者の方々など、家族以外の繋がりをコミュニティすること。

→専門性のある福祉施設の方々と連携を広げていくこと

●『子ども達の楽しみ』をコロナ禍でも念頭において柔軟に行動をとること

→引き続き、寄贈される食材も活用させていただきながら、配食も並行して力を注いでいくこと

今後の展開

学生さんによるボランティア活動をお願いする企画を増やしていくこと。子ども達の多世代交流、支え合う事を通して学びあいインテイクに向いていくこと。自然と次世代へ、子ども達の未来に繋がっていけること。

連携団体

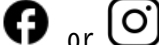
100 年ボンド

坪井幼稚園

ささえりあ子飼

坪井繁栄会

問い合わせ

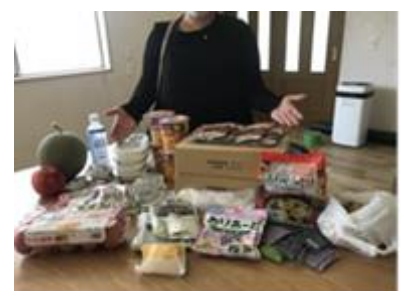
		 or
	096-240-2547 (担当者 西舘)	

活動を始めるきっかけ/活動概要

- 【活動概要】
- (1) 子どもたちが安心して過ごせる居場所の提供
 - (2) 子どもたちに食事 を提供し生活力もつける 学ぶ 活動の実施
 - (3) 子どもの未来を応援するための支援する方の人材育成
 - (4) 子どもの居場所づくりを協働することによる地域活性化
 - (5) 子ども達に生きる力をつけ「ホンモノを知る」活動

★地域の様々な仕事をしている大人を呼び、生き様や技能を体験させ夢を持たせるキャリア教育。

黒髪の立地柄留学生等が多く在住のため交流の機会が多い多文化教育。



重点的に取り組んだこと/成果

【成果】 (1) コロナレベルに応じてコロナ禍でできる環境を整え、従来より人数を制限して活動を続けた。(子ども自身が作ることができるメニューを作り、生きる力をつける学び(調理)を開催した。)(「感染レベル3以上且つ蔓延防止が発令された場合は活動を自粛する」逢桜の里ルールを作り、活動・休止の明確化を行った。(sakura リボン講習 ※1 はコロナ禍で開催を中止。)(活動地域のうち3か所で地域・ボランティアと連携した活動が定着し協力体制が広がっている。(4か所の活動の中でも、特に九州電力(株)様のご支援で開催しているCOC00C0-DiniDiningでは、様々な「ホンモノを知る」体験を開催できた。(東日本大震災、熊本地震、令和2年豪雨災害の被災者への支援活動を継続して行っている。(熊本地震の旧仮設住宅の子ども達に、事務所で大学生による学習支援を開催中。

※1 里づくりにおいて、社会活動の取り組み方や心がけを学び、社会課題を解決したい人が

「一方的な善意の押し付け」や「意図しないハラスメント等の被害」を与えないようにする基準を作る活動

課題/解決に向けての取り組み

【課題】 コロナ禍で活動の継続性【解決に向けての取り組み】・三密を避け、マスク着用し、手洗いうがい、手指消毒、机・機材消毒の徹底・参加者数の制限・開催時間の短縮・共食をせず持ち帰りにする（黒髪逢桜の里事務所を除く）・メンバーがコロナ禍で活動ができにくい中、SAKURA リボン認定者・地域・学生・シングルペアレント登録者・参加する子ども達によるボランティア支援で活動を継続

今後の展開

・「解決に向けての取り組み」を丁寧に続ける・ネットを取り入れた活動の展開・様々なご支援者様の協力の元、新しい形の「里」が構築されていく予定

連携団体

<企業> 九州電力（株）熊本支店、JA 熊本中央会、おやまのやおや、JA 婦人部、吉田養鶏場、農家宮本氏、(株)五喜、わかばクリニック、福思企画、農家岩下氏、積水ハウス

<民間団体> フードバンク熊本、ソロプチミスト熊本、熊本県医師会婦人会、黒髪校区自治協議会、向山校区民生委員、若葉校区、熊本市スクールソーシャルワーカー、NPO 法人熊本県 防災士会、たくとう地域食堂、楡木子ども・地域食堂なごみ、ほがらか食堂、みんなの食堂、YWCA 熊本

<学校> 黒髪小学校、若葉小学校、向山小学校、砂取小学校、桜山中学校、ルーテル学院、必由館高校、中央高校、熊本大学、学園大大学、崇城大学 その他奉仕団体、個人様

問い合わせ

		 or 
airanosato@gmail.com	080-6405-6176 (担当者 上野恵美)	http://airanosato.jp/ https://m.facebook.com/airanosato/

楡木子ども地域食堂 なごみ

活動を始めるきっかけ/活動概要

長年に渡る生活環境の変化で子供・高齢者・保護者の心身の疲弊が見受けられ、特に精神面や栄養の偏りが懸念された。多世代交流を通じた地域づくり・子育て支援が必要と考えた。

—活動概要—

- ・体験教室・食事会 25回
(食育・収穫体験・縁日・ハロウィーン・クリスマス会・餅つき・伝承遊び)
- ・子育て応援パントリー 19回
- ・地域食堂 23回
- ・学習会(夏休み) 7日間(小・中学生)
- ・通常学習会 24回 毎週土曜日(中学生)





重点的に取り組んだこと/成果

出来る限りの感染症対策（施設環境・参加者への協力等）、食中毒対策（衛生面・危機管理等）を行い、体験型子ども食堂・地域食堂・学習会・子育て応援パントリーを開催。大きな成果として、パントリーのみ参加家庭が地域食堂への参加→体験型子ども食堂に家族で参加できるようになったことである。保護者の身内（親）や友達を連れての参加も最近ではよく見受けられる。心の安定や安心安全な居場所として認知されてきたように思う。

課題/解決に向けての取り組み

長年に渡る生活環境の変化に伴い、学力向上を目的とした学習会を行う。

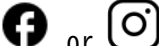
今後の展開

今後も共生型コミュニティづくりの為、企業（地元企業含む）・行政・自治会等・小学校との連携により、安心・安全な子育てしやすい町づくり・地域づくりを継続して参ります。

連携団体

自治会、老人会、子ども会、地域保育園、楡木小学校、民生委員、青少年育成協議会、子育て支援センター、JA熊本市女性部会、フードバンク熊本、みんなの食堂、県北子ども食堂ネットワーク・きっずネットちゃとわ、逢桜の里、楡木スリーボッチャーズ

問い合わせ

		
Nagomisyokudou0811@gmail.com	090-8669-0452 (担当者) 渡邊和代	https://m.facebook.com/nagomi20190811/

Yell つながるカフェ

活動を始めるきっかけ/活動概要

2014年6月子育て支援団体としてYell チャイルドマインダー熊本の会を発足。主に就園前の子どもを持つ親子を対象にして集う場所を作り子育て支援活動を実施。その活動の流れから、食を通したコミュニケーションの場を作り、子どもの食育や子どもの育ちの支援・親子支援も行おうと、2017年9月より子ども地域食堂「Yell つながるカフェ」を開始。毎月第1木曜日 11時～14時開催。（夏休みと2月～3月に追加各1回ほど食堂とワークショップなども実施）コロナにより会食ができない場合も、食品のパントリーと手作りおもちゃキットの配布は継続実施しできるだけ皆さんに会うようにしている。



重点的に取り組んだこと/成果

コロナ化においてもつながりをなくすことがないように、SNS（Yell 公式 line）を通じて情報の提供や臨時パントリーのお知らせなどでつながるようにした。また、その中から個別のやり取りでひとり親世帯やコロナによる生活ひっ迫の家庭などへの支援も行った。また、孤立する子育てが起こらないよう、食堂の開催時にはパントリーを自分でえらんで持っていく形式に変更。会食ができない分、できるだけ母親と話をする時間を作り、困りごとなどがなければ、母親のメンタル面の様子観察なども行った。臨時パントリーでは、普段来ることができないご家庭からも手が上がっており、時間や曜日を変えてのパントリーも広く対応できるかもしれないと感じた。



これらの成果としては母親との話す時間をできるだけとることにより「コロナにより父親の仕事が減り、自分の食べる分を減らしているので、ここでもらったインスタントの味噌汁で救われた」などの言葉が聞かれ、パントリーが少量の提供となることもあるが、役に立つことができていると確認した。また、このような会話もできることで、継続して支援していく中での母親との信頼関係も構築できていると感じた。

課題/解決に向けての取り組み

上記のように、コロナによる経済的負担が増えた家庭、心理的にストレスを抱えた家庭も増えている。コロナの感染予防を実施しながら、ママたちのコミュニケーションの場となるよう会食の場を作っていく。また、経済的にひっ迫している家庭に関しては、今後も皆様からの寄付の保存食など、臨時パントリーも継続していく必要性があり、また、今後の経過などを見ながら関係各所へつなげ、有用な情報の提供も行っていく。

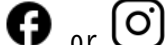
今後の展開

今後もコロナ感染予防を行いながら、子育て家族が孤立しない子育てができるようママ同士のつながりができるような場を考え提供し、母親の心の安定が保てるよう支援を行うことで、家庭環境の安定、子供の成育環境が良く保たれるよう支援を継続していく。また、経済的な問題を抱えている家庭も増えているため、それぞれの家庭の実情の合わせた支援を行う。必要であれば、行政機関や関連団体などへの連携を行う。

連携団体

一般社団法人 熊本県こども食堂ネットワーク
社会福祉法人 熊本県ひとり親家庭福祉協議会
一般社団法人 よか隊ネット熊本
その他、県内各地の子ども地域食堂

問い合わせ

		
Child.yell@gmail.com	090-9599-4788 (担当者) 高井眞弓	https://www.facebook.com/Yell Eメール-1515125778706579/



一般社団法人こどもキッチンブルービー

活動を始めるきっかけ/活動概要

地域で目の当たりにした子どもたちの孤食や、農家さんから廃棄野菜の有効活用について相談を受けた事がきっかけで「こども食堂」を開設しました。親の共働きや核家族化により、子どもだけになりがちな土曜日のお昼に食事を提供しています。孤食を減らし、食べる事の大切さや温かさを知ってもらい、多様な人との関りで社会性やコミュニケーション能力を高めてほしいと思っています。また、生活の負担が少しでも軽減できるよう、食堂と併せてフードパントリー（食材の提供）も開催しています。年に数回行う野外活動では、季節の野菜の収穫体験や野外食堂を取り入れ、様々な体験を通して五感を養う機会を作っています。



重点的に取り組んだこと/成果

【食の支援／会食・弁当】新型コロナウイルスの感染状況に注視しながら食事の提供（会食又は弁当）を行った。会食は、弁当に比べると申し込みが3分の1程度に留まるが、その様な中でも利用される理由の一つとして「コミュニケーション」挙げられる。開催時には近況や様子を伺い、困り事をすくい上げるセーフティーネットの役割と、これまでの繋がりを絶やさないよう心掛けた。

【フードパントリーとフードロスの取り組み】今年度は農家の方との繋がりが拡がり、米や規格外野菜を多く頂いた。不定期に頂く事が多い為、その都度SNSで利用者へお知らせし配布した。登録されているひとり親家庭38世帯を優先的にお渡しし、個別対応も行っている。また「もったいないを笑顔にかえるプロジェクト」と称し、規格外の野菜を数日おきに、こども食堂や養護施設・保育園等に届け活用していただいた。

【野外活動／野外ご飯】南阿蘇村で運営スタッフが育てた落花生やスイカ・さつまいの収穫体験や、農家さんとの共同企画で、ミニトマトやみかんの収穫体験を開催した。畑仕事の後には、野外でご飯を楽しんでもらう事ができた。



課題/解決に向けての取り組み

- ・ 食堂時は、調理やフードパントリーに追われることが多く、利用者との対話が十分でなく困り事やニーズ把握の為にも人数が必要。
ボランティアスタッフの増員／SNS等で呼びかける。

今後の展開

- ・ オンラインでの座談会や相談会などの実施。
- ・ 自然とのふれあい、畑づくりや収穫などの体験活動を増やす。
- ・ 団体、企業、行政など横の繋がりを持ち連携を図る。

連携団体

グリーンコープ生活協同組合くまもと
J A熊本女性部
一般社団法人熊本県こども食堂ネットワーク
一般社団法人人口ハス南阿蘇たすけあい
一般社団法人全国食支援活動協力会
西南ロータリークラブ
シンママ応援団熊本
熊本農業高校
熊本市子ども政策課
川尻小学校・保護者会、城南中学校、川尻校区自治会
南区まちづくりセンター

問い合わせ

		 or 
kodomokitchenbluebee@gmail.com	070-5810-4568 (担当者) 松枝 清美	https://www.facebook.com/kodomokitchenbluebee/

熊本転入ママの会 くまてん

活動を始めるきっかけ/活動概要

子育てを頑張っている母親・父親が少しでもココロにヨハクをもってもらいたい、ホッとする時間を作りたいという思いで活動を開始した。
活動概要は、子育て中の親子にお弁当や食事の提供、食品などの無料配布、親子でダゴ汁作りなど。



重点的に取り組んだこと/成果

コロナ禍で交流する場が激減し、親子が孤立しがちな状況が続いている。育児の悩みを共有したり、聞いてもらったりする場がなくなり、子どもと家庭内で1対1となり精神的に辛いと感じている母親も多い。感染対策として、飲食はせずお弁当の配布などを通して、中止ではなく少しの時間でも対面で会える機会をつくることを意識して活動してきた。毎月参加してくれる親子も増え、近況や悩みを共有したり、参加者同士が繋がったり交流の輪が広がっている。



課題/解決に向けての取り組み

困っている方に知ってもらい参加してもらうためには、活動をもっと知ってもらう必要がある。熊本市公式 LINE などでは広報をおこなった。

料理を提供するスタッフも全員母親のため、人員の確保が難しかったが、お手伝いしてくれる方を募集し、活動に賛同しお手伝いしてくれる方もいた。

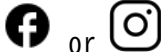
今後の展開

子育て中の親子は孤立しがちで、気づかれないことも多い。様々な機会やアプローチをすることで、辛い思いをしている親子の少しでも助けになるような活動を今後も行っていきたい。

連携団体

一般社団法人子ども食堂ネットワーク

問い合わせ

		
Kumaten.aya.i@gmail.com	090-5967-4279 (担当者 石田彩)	@kumaten.mama

きずな

活動を始めるきっかけ/活動概要

子どもから大人まで地域のつながりを深めていきたい、町を良くしたい、子育てを終え少しでも地域に恩返しが出来たらという思いで活動を始めました。

毎月2回以上（不定期）開催し、8月からは月1回学習支援を開始し12月からは毎週土日（予約制）開催。



重点的に取り組んだこと/成果

コロナ禍において、弁当・物資の配布・宅配が主な活動になりましたが、家族構成や状況・お困り事や、不登校・ひきこもり・学習障害等の相談に対応する為に8月から学習支援を開始し、不登校等改善する事が出来ました。



課題/解決に向けての取り組み

イベント・子育てセミナー・子ども食堂の開催。
感染対策を講じたうえで開催していくようにしたい。

今後の展開

- ・子ども食堂の継続・ひとり親家庭・困窮家庭への応援支援。
- ・障がい者支援・子育てお悩みのサポート・食育・セミナー開催。

連携団体

フードバンク熊本・自治会・子ども会・民生委員等

問い合わせ

		 or 
kizunakodomo0@gmail.com	090-8627-2538 (担当者 成松 美恵子)	

熊本市中島校区子ども食堂まんまる

活動を始めるきっかけ/活動概要

2020年8月に以下の目的で立ち上げ、コロナの影響により10月に実動開始。

●目的

- 1) こどもの居場所づくり（生活に困難を抱える支援を含む）
- 2) こどもと高齢者の孤食防止
- 3) 地域の交流の機会を増やし互いの絆を強化していくこと
- 4) その過程において地域全体で子育て、人育てを可能にしていくこと、子どもたちの自己肯定力や社会性を高めること、住民の自助力、共助力を高めることをねらいとしている。

●実施日 毎月第3土曜日に開催（月に一度）

重点的に取り組んだこと/成果

- 1) 感染防止対策をとりながら、会食ではなくお弁当を希望者に渡す形で実施した。

地域での世代間や学びの機会の創出までは至らなかったが、感染者や食中毒等、問題が起きずに安全に開催できたことが成果。

※R3年は12回開催予定のうち6回の実施に至った。（拠点となるコミセンが利用停止となったため）。毎回40名の定員だが平均的に完売の状況であった。

- 2) 毎回、多くの新鮮でおいしい食材の寄付を頂き、それらの食材をどんなふうに活用しておいしく健康的に食してもらうか彩りも含め工夫をしながらメニューを考えた。参加した子ども達も保護者も高齢者もおいしくてバランスのよい食事に喜んでいただいた。

課題/解決に向けての取り組み

感染防止対策が課題であり、安全確保のため収束まではお弁当を希望者に渡す形で実施する。

今後の展開

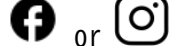
- 1 まずはコロナ感染予防対策。

- 2 状況を見て活動目的でもある世代間交流や学びの機会の創出を提供していきたい。

連携団体

- ・熊本市子ども食堂ネットワーク・フードバンク熊本・大海水産株式会社（魚の提供）
- ・有限会社矢野畜産（肉の提供）・有限会社マルイシ青果（野菜の提供）・有限会社福島商店
- ・JA 中島支店・地域の農家さん

問い合わせ

		
nakashimakodomo@gmail.com	090-5323-5102 清水さとこ（担当）	https://www.facebook.com/manmarunakasima

👶子ども食堂まんまる令和3年12月25日実施の様子👶

当日はクリスマスバージョンのお弁当にお菓子とジュースのプレゼントをお渡ししました🎄



ゆげの森食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

当初、あるお母さんが勤める職場において、母子家庭等の職員さんが少なくなかったことから、少しでも子どもたちの見守りや保護者の方が安心して働ける環境づくりをめざしてスタートした食堂です。毎月第3土曜に食堂を開催しています。

重点的に取り組んだこと/成果

コロナ禍の中で残念ながら1年間食堂開催は出来ませんでしたが、パントリー（食品・生活物資等配布）を毎月開催することができ、延べ281世帯777人に食料品等を渡すことができました。また、中学生のボランティア参加が加わるなど、実施体制も徐々に充実してきました。



課題/解決に向けての取り組み

子どもたちやお年寄りと直接接して、会話する時間を持つことも重要であることから、なるべく早期に食堂開催を復活できればと思います。

必要としている子どもたちやお年寄りなどがどのくらいいるのかを把握できればと思います。行政との連携でざっくりとした数字でも把握できれば、活動を反省する助けになるかと考えています。

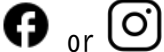
今後の展開

食事提供を中心に、子どもたちが一緒に料理作りを楽しみながら学んだり、学校の勉強を一緒にしたりする場づくりが出来たらと考えています。

連携団体

- ・熊本県こども食堂ネットワーク
- ・フードバンクひのくに

問い合わせ

		
	090-3600-7497 徳富幸平	ゆげの森食堂 Facebook

NPO 法人熊本 YWCA

活動を始めるきっかけ/活動概要

実施場所である黒髪地区は、熊本大学に隣接する地域で大学生向けアパートと世帯向け居住地域が共生している地域である。古くからあるアパートには、生活困難な世帯も暮らしている。大学生を除く地域内世帯をみると、少子高齢化がすすみ子ども会等子ども向け地域包括システムが機能しにくくなっている。同時に留学生の多様化により日本語を母語としない子どもたちが増加している。熊本 YWCA では、国籍や年齢を問わず地域の人達が集えるコミュニティ Café や留学生向けリサイクルバザーを開催・運営しているが、そこに参加する留学生の子どもや生活困難な人々の様子を見て、学習支援とこども食堂のニーズを強く感じ、ボランティアと一緒に宿題や日本語の支援、食育も含む食事の時間、そしてフードバンク等からの寄付品を配るべく「なかよしくらぶ」という子ども食堂の活動を始めた。



子どもたちの要望にお応えし
ハンバーグ

学習支援。
かけ算を頑張っています。

日本語を楽しく覚えてもらうために、
ボランティアが創ったカード。

重点的に取り組んだこと/成果

1) 子ども一人一人に寄り添った対応

参加する子どもたちは、学生や日本語の発達状況、勉強への関心、家庭状況や宗教などがそれぞれ異なっており、一人一人の子どもの状況に合わせた対応を心がけた。

同じ場所で勉強するが、先に終わった子どもはボランティアが別の場所で遊ぶなどして他の子どもの集中力をそがないように気をつけるなど配慮した。また、日本語に慣れていない子どもには小学校の宿題ではなくまずカードなどを使うことで日本語を楽しく覚えていけるようにした。

また、食事に関しては、どのような宗教でも安心して食べることができるようにすべてハラルフードを基準としている。

2) 地域とつながり、理解者をふやし、ボランティアを集める

子どもの多様化による人手不足が続いており、様々な場所でボランティアを募集している。同時に、地域社会で子どもを育てるということの願いと、まだ孤立している世帯や子どもに声を届けたいという観点から地域の自治体との交流や、登下校の見守り活動に参加している。

課題/解決に向けての取り組み

1) 教材等の工夫やモチベーションを向上させる工夫

子どもの特徴から、既製品の教材が使いにくいことや、日本語の進捗状況などに合わせた教材を手作りしている。

また、子ども達の参加度合いや頑張りに合わせてスタンプカードを作り、勉強や食事などを終えたらスタンプを押し達成感を得られる工夫などを行っている。

2) ボランティア不足について

具体的には、熊本市内いくつかの大学を訪問したり、SNS 等を通じたりして社会人に向けたボランティア募集を行っている。

今後の展開

1) 活動を継続する

子どもにとって、安心できる場所が継続してあることは重要なことだと考えている。

家族や学校で出逢う大人とは違う大人、特に少し年上のお兄さんやお姉さんと一緒に勉強したり栄養バランスがよい食事をみんなで楽しく食べたりすることで安定した居場所を構築したい。

2) 資金集めとボランティア集め

子どもたちの居場所をまもるためには、資金と人手が不可欠であるため、食事作りと子どもと直接接するボランティアの両方を募集する。

3) 季節の行事を定着させていく

文化や宗教の違いもあり遠慮していた季節の行事等を文化理解のかたちに変えて、多様な文化や季節を楽しめる行事だと捉え直し、多様な行事を実施していく。

例えば、ひな祭りやクリスマス会だけでなく、子どもたちの背景にある行事（イスラム教の行事など）をみんなで楽しめる形で行っていききたい。

連携団体

黒髪地区（特に自治会）（自治会活動及び、小学生登下校の見守り活動への参加）

フードバンク熊本、逢桜の里、熊本 YMCA、黒髪小学校、黒髪 5 区自治会

問い合わせ

		 or 
chiethai@iwa.att.ne.jp	090-9598-3557（吉村）	

尾ノ上コミュニティ食堂「陽だまりの樹」

活動を始めるきっかけ/活動概要

共働きやひとり親世帯、一人暮らし高齢者の家庭が増え、子どもや高齢者の孤食が増えている。小学校の給食がない日や代休の日に、自宅に昼食がなく、お金だけ渡されコンビニや駄菓子屋などで買って食べる子どもも多い。

働く親にとっても、朝から子どもの昼食を準備して仕事に行くのは負担が大きく、そのような親の負担を減らすためにも、みんなで集まって楽しく温かい食事をしてほしい。

また、子どもたちと一緒に食事の支度や、おやつ作りをすることで、食に関心を持ち、きちんとした食事をとることの大切さを教えていきたい。

放課後や学校が休みの日に一人で過ごすのではなく、友達と一緒に食事したり遊んだりする居場所でありたい。

ひとり親世帯の大変さはもとより、昨年度から今年度にかけてコロナで収入が減った世帯も多く、また孤食を少しでも減らしたいとの思いがあり、誰もが参加できる「コミュニティ食堂」にすることで皆が気兼ねなく利用でき、子どもや高齢者が地域とのかかわりを深めていける場所にしたい。

重点的に取り組んだこと/成果

今年度もコロナに振り回された一年でした。開催場所になっていた尾ノ上老人憩いの家は、昨年度から、コロナのレベルが上がっても使用できるよう、熊本市老人福祉課から許可は頂いていましたが、夏にかなり感染レベルが上がったことと、豪雨災害により、建物に大規模な雨漏りが起こってしまい、施設が完全封鎖になってしまいました。夏休みの学習支援を計画していたため、急遽校区内の空きテナントを借りて開催しました。その後はそのままそこに拠点を移し、クリスマス会や餅つきなどのイベントは老人憩いの家を利用するなど、臨機応変に対応することにしました。

今年度は夏休みの学習支援も行いました。プロの画家の先生に来ていただき、学生さんのボランティアスタッフと、自由課題の絵画の宿題や終わっていない宿題を持参して、二日間行いました。なかなか自宅で絵の具を使った絵画制作が難しいお子さんも多いため、のびのびと絵を描く時間は子供たちもとても楽しそうにしていました。



夏祭り、クリスマスなどのイベントはコロナ禍でも行いました。学校の行事が次々となくなり、イベントもお祭りも何もなく、今年は中止。子ども達にとって、小学校最初のイベント、あるいは小学校最後のイベントだったもの。大人にとっては今年だけでも、子どもにとってはかけがえのない一年。そんな子供たちの一年を大切に捨て上げたくて、イベントを大切にしてきました。

夏祭りの時期は、ちょうどコロナが増え始めた時期でもあり、ことごとくイベントが中止になってしまったため、夏休み唯一の思い出になった子も多かったようです。



課題/解決に向けての取り組み

今年もコロナに振り回された一年となりました。開催場所になっていた老人憩いの家も、コロナのレベルが上がったことと、夏の豪雨による雨漏りで、使用できなくなってしまう、急遽場所の変更を余儀なくされました。たまたま、空きテナントを使うことが出来、中止することなく開催を続けてこられました。今後安定した活動をするためにも、拠点の必要性を感じました。

しかし、賃料などに使える助成金などは少なく、毎月の家賃の負担を考えると、なかなか難しいため、安定した活動資金の確保が必要になります。

現在、リーフレットを作成中。寄付などを、継続的に頂けるよう、働きかけていけたらと思っています。

今後の展開

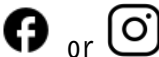
来年は、学習支援なども取り入れていきたい。今回夏休みに行った絵画と夏休みの宿題を対象にした学習支援が好評だったため、今後も続けていけたらと思っています。

学生ボランティアも登録を増やし、学習支援などを有償ボランティアでできるよう、人材の確保と、資金の確保が必要になるため、より安定した活動が行えるように、財政の基盤を作っていきたいです。

連携団体

一般社団法人 熊本県子ども食堂ネットワーク、フードバンク熊本、フードバンクひのくに、FamilyMart 九品寺店、ささえりあ、きらきら星ゾデン、社会福祉法人熊本県ひとり親家庭福祉協議会とてとて、生活協同組合熊本 尾ノ上コープ

問い合わせ

		
Ymymt223@gmail.com	090-4355-3320 (堤 雅)	尾ノ上コミュニティ食堂《陽だまりの樹》 Facebook

食育体験！ たつだ・こどもカフェ

活動を始めるきっかけ/活動概要

少子高齢化が懸念される中、核家族が増え地域の希薄化が心配されている。地域の校区は、ひとり親家庭、両親がいても共働きで帰宅が遅く子どもの孤食が心配される。また、一人暮らしの高齢者の孤立化も進んでいる。そんな中で起きた熊本地震、地域との関わりがとても大切だと感じました。

当団体は、子育て中のお母さんが孤独にならないように育児を楽しめるように、孤食の多い子ども達、高齢者の方、地域の方、誰もが協力し合い一緒に調理をすることで会話が生まれ、料理を覚えることで子ども達に生きる力を育み、子育て中の方は仲間作りに、高齢者の方には生活意欲向上など、また地元の食材を調理に活かすことで地産地消・環境保護にも繋げる。みんなの居場所（サードプレイス・第三の居場所）となる場所を作り共生型コミュニティを作りたいと2016年から毎月第一日曜日に、熊本市北区龍田陳内アースフーズ建物内で食育体験・食事提供を行ってきた。アースフーズ様より利用が困難になったと伝えられ、2020年1月より龍田地域コミュニティセンターにて、今まで同様に毎月第一日曜日開催している。毎回20～50人程度参加。

昨年度に引き続き2021年度は、コロナウイルス警戒レベルが上がり会場の利用ができない月は、コミュニティセンターの玄関先・駐車場にて食材配布を行っています。

- 4月4日 食育体験・ゼロ円ショップ（お米の研ぎ方とおむすび作り・アオサの味噌汁・照り焼きチキンなど）
- 5月15日 おすそわけ会（コミュニティセンター駐車場・ホールにて）
- 6月5日 おすそわけ会（コミュニティセンター駐車場・ホールにて）
- 7月3日 おすそわけ会・ゼロ円ショップ・七夕飾り作り（コミュニティセンター駐車場・ホール）
- 8月1日 食育体験・ゼロ円ショップ（防災チキンライス・生姜焼き・サラダ・クレープ作り体験など）
- 8月22日 おすそわけ会（コミュニティセンター駐車場・ホール）
- 9月11日 おすそわけ会（コミュニティセンター駐車場・ホール）
- 10月10日 おすそわけ会（コミュニティセンター駐車場・ホール）
- 11月7日 食育体験・ゼロ円ショップ（防災わかめご飯・棒棒鶏・春雨スープ・いきなり団子作りなど）
- 12月5日 食育体験・ゼロ円ショップ（米粉ピザ作り、スイートポテト、おむすび作りなど）

活動の様子



重点的に取り組んだこと/成果

コロナ禍で会場の利用ができず食育体験ができない時期がありました。休園・休校や収入減など生活が大変されていると聞き、少しでもお役に立てたらと集まった支援物資を「おすそわけ会」で配布しました。ボランティアスタッフが不用品を持ち寄り、ゼロ円ショップを行い豪雨災害支援募金に繋げました。コロナ警戒レベルが下った月は食育体験を開催し、鬱など保護者が体調不良で食材があっても料理できない家庭のことを聞き、お子さんもお飯が炊けるようにお米の研ぎ方・ご飯の炊き方を、班を作って子どもたちが全員体験できるように行いました。夏休みは学校給食が無いので2回企画しましたがコロナの状況に合わせて食育体験とおすそわけ会を行いました。毎回、参加される方・ボランティアスタッフが気持ちよく過ごせるように、相手の言葉を否定せず受け止めてから自分の意見を話すようにすることや、コロナウイルス感染対策に体温測定・手洗い・消毒・アンケート記入の協力・空間除菌など安全に運営できるように努めました。

◎活動の成果

- ・おすそわけ会で食べ物に困っている家庭があると相談があり、数回、食材をお届けした。その後、お仕事に行けるようになったと聞き、とても嬉しかった。
- ・子ども達全員にお米を研ぐ体験をするためボランティアスタッフも全員で指導に入った。子ども達にもボランティアスタッフにも良い交流の会となった。
- ・ゼロ円ショップで靴が残る時があり、荒尾市の子ども食堂の代表の方から使わなくなったランドセルや靴をフィリピンの子供達に送る支援団体の話を聞き、使用しなくなった靴を持ち寄り繋ぐことができました。
- ・熊本市を通じて大学生、地域の方から高校生、企業の方からボランティアの連絡があり協力していただいた。
- ・欲しいけど買わずに我慢していた、保育園の布団セットなど見つかり本当に感謝しています。とお礼を言われた。

課題/解決に向けての取り組み

- ◎課題
- ・安全に活動できるよう、ボランティアスタッフの増員・調理指導方法や衛生面の共有
 - ・ボランティアスタッフの一時的な善意の押し付けや意図しないハラスメントなどの予防
 - ・コロナ禍、困りごとお話しする機会が少ない、金銭面で困っている方が増えている。

- ◎解決に向けて
- ・年に数回でも研修や講座を全員で受ける（出前講座・勉強会）・感染対策用備品の購入
 - ・お金の相談ができる生活再生相談室や受けられる支援の情報を集める。

今後の展開

- ・地域での認知度を上げ参加者を増やす(看板・チラシ配布場所を増やす)
- ・ボランティアスタッフの募集・学習支援、朝食支援、料理教室

連携団体

- ・TSUDOU・NET 熊本・フードバンク熊本・他のこども食堂・龍田まちづくりセンター
- ・龍田校区社会福祉協議会・民生児童委員・グリーンコープ生協くまもと・カネイチ

問い合わせ

		 or 
imryre1018@gmail.com	090-9565-2478 (担当者 井村ユリエ)	食育体験！ たつだ・こどもカフェ Facebook Instagram

にしばる地域食堂実行委員会

活動を始めのきっかけ/活動概要

校区の中で核家族化や高齢化により、地域住民の関係性が希薄化し、交流の機会が減少している。コロナ禍でも、子どもや高齢者が気軽に立ち寄れる多世代交流の場として地域食堂を実施することになった。



重点的に取り組んだこと/成果

- ◎地域食堂開催にあたり、高齢者の中でも女性に比べ参加者が少ない男性高齢者が調理を含め活動の中心となるように、各町内老人会に働きかけた。
- ◎自治会の協力だけでなく、地域の各種団体に協力を依頼し、校区全体に情報が伝わるように工夫した。
- ◎コロナ禍の中での会食が困難なため、持ち帰りでの対応を実施した。
- ◎新しい視点を入れるために、県立大学の大学生にも協力を依頼し、広報活動など協力を得ることができた。

課題/解決に向けての取り組み

- ◎校区全体への周知が不十分。(特に高齢者)
- ◎小学校、老人会などに協力を依頼し、校区が一丸となって取り組む事業にしたい。

今後の展開

- ◎現在は、限られたメンバーでの実施となっているが、広く協力を得るために校区内の事業所やボランティアを募集することにより支援者を広げたい。
- ◎子どもたちの学習支援を検討したい。

連携団体

- ・西原校区自治協議会
- ・西原小学校 PTA
- ・ささえりあ保田窪
- ・鶴田病院
- ・熊本県立大学
- ・社会福祉法人朋岳園
- ・西日本病院
- ・熊本市障がい者支援センター青空

問い合わせ

		 or 
shinobuhigu@gmail.com	090-5088-5245 日隈 忍 (ひぐま しのぶ)	